

近畿地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

分担研究者：鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部 教授）

研究協力者：後藤大輔、町登志雄（公益財団法人エイズ予防財団）、宮田良、有田匡、赤田知華子、大畑泰次郎、伴仲昭彦（MASH大阪）、岳中美江（特定非営利活動法人CHARM）、川畑拓也（大阪府立公衆衛生研究所）、塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

平成25年度、MASH大阪は以下のような研究事業を実施した。

1. 一次予防関連プログラムの執行

(1) コミュニティレベル

①月刊のコミュニティペーパー<SaL+>（以下、<SaL+>（サルポジ））を継続して発行した。2013（平成25）年4月～12月の期間に、月平均187店舗および45団体に21名のボランティアが約6,365部を配布した。内容に関しては昨年度に引き続き本年度もエイズ予防/セクシュアルヘルス関連情報を前面に押し出した。②季刊のコミュニティペーパー<南界堂通信>を、<SaL+>とは異なる中高年層を対象として、彼らのセクシュアルヘルス、ライフスタイル、教養を三つの柱として制作した。2013（平成25）年4月～12月の期間に計3回（5月、8月、11月）発行し、平均195店舗、45団体に21名のボランティアが1,804部配布した。

(2) グループ・個人レベル

①コミュニティスペース<dista>関連事業を執行した。期間中に月平均624.3名が来場した。そのうち初来場者は月平均63.1名で期間全体としては568名であった。昨年比で来場者数は増加傾向にあり、初来場者数は、昨年よりも高かった。2013（平成25）年12月までの相談件数は128件であった。昨年度に引き続き、相談・支援体制の強化と今後の体制構築を目的として「対人支援会議」を月に1度設けた。②STI勉強会<SEX & LIFE 勉強会>を新たに<性の健康教室>と名称を変更し、毎月語り合うテーマを変え工夫を凝らして開催した。毎月2名～6名の参加者があった。③若年層ネットワーク構築支援プログラム<Step>を4月～12月で開催した。総計172名が参加、うち25名がプログラム初参加の若者であった。

2. 二次予防関連プログラムの執行

(1) 「エイズ予防のための戦略研究」により2007～2010（平成19～22）年に実施されたSTIクリニックでの受検を促進するプログラムを2回実施した。実施期間は1回目を2013年8月～9月、2回目を2013（平成25）年12月～翌年2月までとした。本年度はハッテン場ロッカーにおける広報をさらに拡大する形で実施した。1回目の受検者は222名、HIV陽性率は2.7%であった。

(2) 2013（平成25）年7月に6つの診療所・クリニックからの協力を得て、<クリニックでHIV&梅毒検査うけてみる>キャンペーンを実施した。検査実施期間は7月16日～28日で、広報は大型のゲイイベントにおいてのみ行った。来場者1,300名に資材を配布し、受検者数は6名であった。このキャンペーンを利用して、HIV・梅毒の感染を早期に知る機会になった。

(3) 自治体や検査の現場で働く保健師やNGOワーカー等、セクターを越えたネットワークを創出し、MSMにとっての検査環境の質の向上を目的とした、プロフェッショナル・ミーティング (PM) を昨年度に引き続き開催した。2013 (平成25) 年5月に実施し、参加者は18名であった。

(4) 大阪府の検査場面におけるMSMへの対応の研修会を実施した。MSM対応の模擬体験を保健師や医師等を対象として2013 (平成25) 年10月に実施し、参加者は23名であった。

3. 介入プログラムの効果評価として、コミュニティベース質問紙調査-GCQ アンケート 2013-を2013 (平成25) 年4月7日から7月15日に実施した。また、2011 (平成23) 年度から継続して実施している保健所・STIクリニックでの受検者アンケート調査を引き続き実施した。

A. 研究目的

本研究の目的は、2012 (平成24) 年度に執行された研究事業を記述・分析し、効果評価と照合することで、個別施策層向け予防介入事業のモデル構築を試みることにあつた。

また予防介入事業の資料とするために、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMにおけるHIVを含む性感染症に関連した状況や行動を年齢層別に把握することを目的とした。一方で検査行動の促進に関しては大阪府内の保健所等の検査受検者の動向を把握し、エイズ予防指針における個別施策層として指摘されている男性と性行為をする男性 (以下、MSM : Men who have sex with men) 受検者の特性を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法と対象

本研究の対象は2013 (平成25) 年度にMASH大阪によって執行された予防介入プログラムであり、後述する効果評価の結果と比較検討したうえで考察を加える。考察にあたっては、疫学とその周辺領域のみならず、テキスト分析、ソーシャルマーケティング理論、社会学といった広い領域からの言及を行うこととする。

また、近畿地域においてインターネットを用いて当事者を中心としたコミュニティベース質問紙調査-GCQアンケート2013-を実施した。本調査は全国で同一の方法を用いて行われており、配布地域を明らかにするため各地域で固有のQRコードを設定している。質問の内容は基本属性、検査行動、性行動、性感染症既往歴、

HIVに関する対話経験、周囲の感染者の有無、予防介入プログラムへの接触状況などとした。近畿地域では2013年 (平成25) 4月7日から7月15日までの約3ヶ月間に実施した。

また、大阪府内の15箇所の保健所の協力を得てHIV検査受検者を対象とした質問紙調査を実施した。本調査は2011 (平成23) 年度から継続して実施しており3年目にあたる。本分析では2013 (平成25) 年1月から9月末に得られた回答を対象とした。

C. 研究結果

1. 一次予防関連プログラム

(1) コミュニティレベル

①コミュニティペーパー<SaL+>

(これまでの経過)

2000 (平成12) ~2002 (平成14) 年度に開催された臨時検査イベントSWITCHを通して得られた情報をコミュニティに還元するためのツールとして構想されたコミュニティペーパー<SaL+> (以下、<SaL+> (サルポジ)) は、2003 (平成15) 年度に入りコミュニティペーパー的性格を強めながらコミュニティに浸透してきた。2004 (平成16) 年度に実施したフォローアップ調査の結果、関連知識、受検行動、予防行動のいずれにおいても、受取り群には非受取り群と比較して有意な効果もたらされた事が示唆された。2009 (平成21) 年度からは、コミュニティ関連情報よりも、セクシュアルヘルス関連情報を前面に打ち出す方向転換を行った。具体的には下記の2点である：1) 特集

記事において、エンタテインメント性を保ちつつエイズ予防/セクシュアルヘルス関連のテーマを取り上げる；2) 医師やMSWまたは検査技師等、専門職者のインタビュー記事を掲載する。

(目的)

1) MASH大阪が把握している情報をコミュニティに還元する；2) 配布活動を通じて、コミュニティとのネットワークを構築する；3) 地域に密着した情報を発信し共有化をはかることで、コミュニティへの帰属意識を涵養する。

(方法)

今年度も昨年同様の編集方針で進め、発行部数もほぼ同程度で行なった。

(成果)

今年度は毎月平均187店舗と45団体に21名のボランティアスタッフが6,365部を配布した(2013年12月末時点)。年間を通して、発行部数のほとんどは、ゲイタウンや地域団体への配布であった。(付表1)

2009(平成21)年に実施した調査研究の結果、1号から95号まで一貫してみられる特徴として、1)多声的な言説空間の構築がめざされている、2)セクシュアルマイノリティであることを問題視しない、3)セックスを肯定的に捉える、4)HIV陽性であることを特別視しない、5)文体は「笑い」を基本とする、が明らかとなった。変遷をたどる読みから見えてきた特徴としては、第1期(1号～12号)では記者・編集者の声を中心であるのに対し、第2期(13号～76号)では記者・コミュニティメンバー・専門職者の声が交じり合う傾向が強くなり、第3期(77号～95号)ではこれに加え科学的・制度的言説(シグナル)と個人の観測・感情・破綻(ノイズ)が混在していることがあげられた。本年度は第3期の方針が踏襲されている。

②コミュニティペーパー<南界堂通信>

(目的)

HIV検査受検のニーズ、早期治療のニーズが極めて高い大阪地域の40歳以上の中高年層

MSMに向けて必要な情報を提供し、予防行動、受検行動を促す。

(方法)

コミュニティペーパー<南界堂通信>(以下、<南界堂通信>)を定期的に発行し(当面は季刊)、継続的に中高年層をエイズ関連情報に晒すようにする。ここでいう中高年層とは40歳以上を指すが、特に40歳代、50歳代MSMをメインのターゲットとする。

これまでの調査や活動実績から、中高年MSMにはエイズの知識のみを前面に押し出す資料は手に取ってもらえないことが分かっており、予防啓発関連情報だけでなく、MSM関連の教養、セクシュアルヘルス、ライフスタイルに目配りした情報を提供することで、この先も健やかで充実した人生を送れるようなライフプランを提案しつつ、予防行動、受検行動の促進につなげることが必要である。

(成果)

今年度は、大阪市のMSM向けHIV予防啓発普及啓発事業、大阪府地域医療再生基金事業として実施した。今年度は毎月平均195店舗と45団体に21名のボランティアスタッフが1804部を配布した(2013年12月末時点)(付表2)。年4回の季刊として発行した。利用者から「字が大きくて読みやすい」「中高年向け資料の発行を待っていた」などの声が寄せられた。新たにプログラムの担当者を置き内容の拡充と体制の強化を図った。記事内容に医師等の医療従事者へのインタビューや、地域の歴史、中高年特有の疾患などに合わせて、エイズ関連の情報を掲載している。現在、担当者1人ボランティアスタッフ4人と編集体制は整いつつある。

(2) グループ・個人レベル

①コミュニティスペース<dista>

(目的)

大阪地域のゲイ男性が利用する商業施設が多い地域に啓発普及の活動拠点を整備・運営し、HIV/STI感染予防に向けた啓発プログラムを戦

略的に展開することを事業目的とする。コミュニティセンターの機能は以下のとおりである。

○予防啓発事業の拠点機能として

- ・啓発活動およびアウトリーチのベース基地（啓発の実施・普及機能）
- ・予防啓発に関わるスキル研修会・講習会会場（人材育成機能）
- ・セーファーセックス勉強会やワークショップ会場（啓発普及機能）

○情報センター機能として

- ・コミュニティの人がふらっと自由に立ち寄れて、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる（情報の還元・普及機能）
- ・相談場所・窓口（相談機能）

○コミュニティセンター機能として

- ・コミュニティ交流プログラム会場（地域交流機能）
- ・コミュニティからのリアクションをフィードバックさせる（情報収集機能）
- ・リピーターを獲得し、その人達と相互に確実な情報伝達をくりかえすことによって、コミュニティ内のキーパーソンの育成をはかる。

（対象クライアント）

対象クライアントとして以下を想定した。1) ゲイ関連商業施設従業員;2) ゲイ関連商業施設利用者;3) インターネット利用者;4) エイズ対策関連団体/個人

（成果目標）

成果目標として以下を想定した:1) 当事者性を重視した予防啓発活動をコミュニティの中心エリアで実施し、コミュニティメンバーや関係機関との連携・協働により、セクシュアルヘルスの増進、セーファーセックスへの環境づくりを目指す;2) コミュニティスペースdista（以下、dista）を核としたコミュニティ・ネットワークを構築し、そのネットワークを通じてHIV/STIの予防や共生のメッセージと正しい情報が伝わってゆくことを目指す;3) 情報と空

間・時間を共有し、HIVを身近に感じる人が増えていくことで、HIV/AIDSの予防と共生の意識がコミュニティ全体に広がり、行動変容を促すことを目指す。

（運営体制）

2013（平成25）年度は昨年に引き続き、基本オープン時間を水曜日～月曜日の17時～23時とし、火曜日を休館日とした。土曜日には不定期でイベントを開催し、その際はオープン時間を17時～5時とした。17時～20時をAシフト、20～23時をBシフト、及びイベント開催時の土曜日の23時～5時をCシフトとして、運営スタッフとコンシェルジュ（ボランティア・スタッフ）がシフトを組んでdistaの運營業務に当たった。コンシェルジュは現在4名で稼働している（2013年12月時点）。

（成果）

今年度の施設オープン時間は月平均 180.1 時間であった。来場者数は月平均 624.3 名であり、前年度より微減した。そのうち初来場者は月平均 63.1 名であり、昨年よりも微増した。初来場者数は全体の約 1 割であった。

dista の利用状況及び利用者数年度別推移は付表 3 と付表 4、利用者年代別状況は付表 5 に示した。今年度に開催したカフェイベントと教室の実施内容および展覧会内容は付表 6 と付表 7 のとおり。相談件数は月平均 14.2 件であった。その推移と相談内容は付表 8 及び付表 9 のとおり。また相談・支援体制の強化と今後の体制構築を目的として＜対人支援会議＞を企画し、月に 1 度開催した（付表 10）。

また、ふらっと来た来場者のうち特に初来場者については、コンシェルジュが積極的にコミュニケーションをとる方針を徹底させたことにより、dista の説明や予防、検査情報を確実に提供できた。

今後は、相談員の育成と、幅広い年齢層に届く広報や企画を推進し、新規利用者の獲得と、相談と予防情報の提供を確実にできる予防・支援拠点としての充実を目指す。

②STI勉強会<性の健康教室>(2012年4月から<SEX & LIFE 勉強会>の名称を変更して開始)

(目的)

<性の健康教室>は、「SEXとHIV/STI」を中心としたテーマを設定し、一義的な展開や啓発色の強いメッセージを発信するのではなく、自らの言葉で意見、情報を交換し、多様な性や生活のあり方を認め合いその雰囲気を共有するものである。自分達にとってのSEXを考え、語ることにより、SEXに対する興味や意識を喚起し、SEXと密接な関係にある性感染症に対する認識を促すことを目的とする。また、SEXの話題の中にセーフターセックスに関する情報を盛り込み、STIやセーフターセックスに対する知識向上と共に予防と共生の意識を浸透させることを目指すプログラムである。

(方法)

実施手法として以下の点を挙げる：1) ファシリテーターを設け対話形式での展開を行う；2) 対話の場を問題なく円滑に進行させるためグラドルールを設ける；3) 参加者が意見を発し、取り組みやすいような場所や雰囲気を設定する。

今年度は、毎月第2土曜日(18時～20時)に実施した。対話や相談等の場となることに留意した。

広報は、<SaL+>やdista.bや、mixiやtwitter等のソーシャルメディアを用いて行った。

(成果)

エロネタや恋愛ネタなどの身近なテーマ設定により、積極的な参加と発言を促すことができた。また、セックスや恋愛に関する実践的な話を共有することで、実生活に役立つ情報を共有し、実践に役立ててみるという声が聞かれるなど、情報を持ち帰ってもらうことの有意性が感じられた。自身の経験をポジティブに語る機会は自身だけでなく他の参加者の経験に対してもポジティブに捉えることができ、安心して発言ができる雰囲気を作り出すことができた。

その結果、性感染予防やセクシュアルアイデンティティの形成について対話することの重要性を実感し、それを共有する機会を作り出すことができた。また、プログラムの最後に15分程度のミニ勉強会や対話の中でセーフターセックスを意識するための仕掛けを設けることで、必要な情報を的確に伝えやすく、参加者への意識づけが可能な機会となった。今後も新規クライアントの獲得を目指す場合の広報の手法や、運営体制の見直しを行い、今までのノウハウを活かしつつ更なる充実を目指す。プログラム実施状況は付表11に示した。

③若年層ネットワーク構築支援プログラム

<Step>

(目的)

コミュニティにあまりアクセスしていない10代～20代の若者をターゲットとしたプログラムである。プログラムの目的として以下の点が考慮されている：1) コミュニティや、MASH大阪に未接触の若者に対する入り口となる事；2) 参加者がdistaへアクセスするようになる事；3) 他のプログラムへのボランティア・リクルートになる事。

(方法)

事業は以下の点に留意しつつ展開した：1) 啓発色を出さず、季節感やお得感を出し、遊びに行く、楽しむ、友達作りなどの企画を実施する；2) distaへアクセスするきっかけを提供する；3) mixi(大手のSNS=ソーシャルネットワークキングサイト)を中心とした広報宣伝を行う；4) プログラムに関わるスタッフの友人の中であまりSTIの情報に触れていないクライアントの参加を促進させる；5) 企画運営実行は主にコミュニティの若者が中心に行う。

(成果)

今年度は2013(平成25)年4月～12月に、計11回の企画を実施した。実施内容は付表12のとおり。参加者は合計172名、そのうち初参加者が25名、過去に参加経験のある人は147

名であった。

本プログラムの目的のうち、コミュニティや MASH 大阪に未接触の若者に対する入り口となる事と、参加者が dista へアクセスするようになる事については、あまり達成できていなかったため、今年度は若者オーガナイザーを中心とした StepPARTY を開催しコミュニティにアクセスしていない層が最初の入り口としてコミュニティセンターを利用するリクルート方法を行った。

2. 二次予防関連プログラム

(1) <クリニック検査 1,000 円キャンペーン> (目的)

診療所・クリニックを活用し、MSM に対して、彼らが受検しやすい HIV/STI 検査受検機会を提供することにより、エイズ発症に至ってから自分が HIV 感染していることに気づく人を減少させ、ひいては HIV/STI の感染拡大を抑止することに寄与することを目指す。

上記の目的は以下の 2 点に具体化される：1) HIV/STI 検査受検の選択肢の一つとして、診療所・クリニックを位置づけることで、診療所・クリニックにおける MSM の HIV/STI 検査受検を促進する。その結果、STI の結果が陽性の場合、そのまま治療へつながる、その後も行きやすい、かかりつけの診療所・クリニックをつくる、などのメリットが考えられる；2) 通常検査と迅速検査の違いやそれぞれのメリットとデメリットについての理解を促進し、違いを踏まえたうえで、自分自身で決定、選択して受検できるよう周知を図る。

(方法)

本プログラムを理解し、協力の得られる診療所・クリニックにおいて次の 2 つの検査を選択できる：

- 1) 通常検査：採血後 1 週間以降に検査結果を通知する「HIV/STI 検査 5 種類セット (HIV、梅毒、B 型肝炎、C 型肝炎、クラミジア)
- 2) 迅速検査：採血したその日のうちにスク

リーニング検査結果を通知する（要確認検査の場合は、翌週以降に検査結果を通知する）「HIV/STI 迅速検査 4 種類セット (HIV、梅毒、B 型肝炎、C 型肝炎)」。

但し要確認検査時は、臨床検査会社で第四世代のスクリーニング検査法によって追加スクリーニング検査を行う。また梅毒検査陽性時には、治療が必要かどうか判断するために臨床検査会社で追加の定量検査を行う。

フライヤー、ポスター、ホームページ、twitter、ハッテン場ロッカー、各種 SNS などを利用し、1,000 円の自己負担で HIV/STI 検査が受けられることを広報した。<SaL+>にキャンペーンの告知も行った。

MSM 自らが、通常検査か迅速検査かを選択し協力診療所を訪れる。協力診療所で広報資料添付カードかウェブ画面を提示し、このキャンペーンによる受検とした。

検査前後の不安へのサポート（特に迅速検査により要確認検査となる人へのサポートが重要）として、以下の相談対応を用意した：

- 1) dista（対面・電話・メール）：火曜を除く 毎日 17 時～23 時
- 2) CHARM、HIV サポートライン関西（電話）：毎週月曜・水曜日 19 時～21 時

実施期間は、2013（平成 25）年 8 月～9 月末と、2013（平成 25）年 12 月～2014（平成 26）年 2 月末の 2 回とした。広報は、初回は 7 月より、2 回目は 11 月より実施した。

受検者には、採血後に調査票アンケート（診療所・クリニックで回収）の記入を依頼した。

この検査キャンペーンは、大阪府「地域医療再生基金事業」によるもので、本研究班はアンケート調査により受検層を把握した。

(成果)

○協力診療所・クリニックは計 8 施設で、通常検査は岩佐クリニック、高田泌尿器科、田端医院、京橋杉本クリニックで、迅速検査はそねざき古林診療所、亀岡クリニック、菅野クリニック、中村クリニックで提供された。

- 受検者数は1回目2ヶ月間の実施で222名であった。(昨年実施した同様のキャンペーンでは実施期間が3ヶ月で189名の受検者であった)
- 受検者のうち、HIV陽性が6名(陽性率2.7%)であった。その他の性感染症は梅毒(要治療患者)が5名、B型肝炎抗原陽性が1名、C型肝炎抗体陽性が1名、クラミジア抗原陽性が(通常検査受検者68名中)2名であった。
- 通常検査の受検者が68名、迅速検査の受検者が154名であった。
- 受検したが結果を受け取りにこなかった人が5名いた(通常検査4名、即日検査1名)。
- クリニック・診療所の医師から陽性結果を受け取った時に資材をもらったことにより、陽性の人のためのサービスやプログラムを知り、利用した人がいたことが確認された。これまでのクリニック検査キャンペーンをきっかけに、クリニック・診療所と地域サービスの連携が強化されてきていることが示唆された。
- キャンペーン期間中(7月1日~9月30日)の広報サイトの閲覧数(アクセス数:PCサイトとスマートフォンサイトと携帯サイトの合算)は8,002件であった。
- 広報資材の設置にあたり、MSM向けサウナ系マンション系商業施設との交渉を行った。結果、MASH大阪と協力関係にあるハッテン場商業施設18軒からマグネットポケット設置についての協力が得られた。
- MSM向けサウナ系商業施設用の資材として、ロッカーに貼付けられるマグネットポケットを準備し、その中に入れるブックレット型の資材を製作した。
- マグネットポケット貼付け作業は、ハッテン場商業施設スタッフの協力を得てロッカー内に貼りつけた。協力施設のロッカー数は計1,346個であった。(付表13)
- 昨年度に引き続き、ハッテン場ロッカーを利用した広報を行った。この取り組みにより

ハッテン場商業施設との連携ができた。

- 受検者アンケートを分析した結果を付表14および図1-4に示した。
 - ・アンケートの回答者は209名(回収率94.1%)であった。
 - ・居住地は74.2%が大阪府内であり、性的指向がゲイであった割合は72.7%であった(付表14)。
 - ・HIV検査の受検経験では、今回が初めての受検と回答した人は22.5%であった。本キャンペーンを利用したことがある人は43.5%であった(図2)。
 - ・過去6ヶ月間の有料ハッテン場とバーの利用割合は、両方利用者が27%、ハッテン場のみ利用者が34%、バーのみ利用者17%、両方利用なしが22%であった。利用経験別に受検経験をみると、初受検者割合はハッテン場のみ利用者で最も高く27%であり、次いで両方利用なしが26%であった(図3)。
 - ・distaの認知割合は66%、<SaL+>59%、<南界堂通信>12%であった。(図4)

(2) クリニックでHIV&梅毒検査受けてみるキャンペーン

(目的)

これまでに実施した<クリニック検査1,000円キャンペーン>のノウハウを活かし、若年層向けの新たな検査機会の創出とする。

(方法)

- 1) 本キャンペーンの資材を、クリニックに提示すると、無料でHIVと梅毒の検査が受けられる。
- 2) 受検者は迅速検査を実施している診療所・クリニックか通常検査を実施している診療所・クリニックを選択する事が出来る。
- 3) 本キャンペーンの資材として、イベント出演者であるGOGOBOYやパフォーマー10名からの写真とセーファーセックスのメッセージを添えたブックレットを作成し、ク

リニックで HIV&梅毒検査受けてみるキャンペーンの受検案内ちらしを挟み込みをし、来場者全員に手渡しで配布する。

- 4) 無料による受検人数の殺到を懸念し、またすでに予定されていた<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>の広報と混同されることによる混乱を避けるため、広報期間が被らない様に、7月14日に Zepp なんばで開催され、比較的若い層が集まりやすい大型クラブイベント（ZUMANITY）でのみ広報を行った。
- 5) 検査受付期間は、受検者と医療機関の混乱を避けるため、<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>の検査受付期間と被らない様に7月16日から7月28日の2週間とした。
- 6) 公益財団法人エイズ予防財団の事業費をい財源とした。

(成果)

6カ所の診療所・クリニックの協力を得て実施した。大型クラブイベントには、計1,300名の来場があり、全員に資材を手渡しで配布する事が出来た。検査受付期間中6名の受検者があった。このキャンペーンを利用して、HIVと梅毒の感染を早期に知る機会になった。

受検者へのアンケートも実施したが、受検者数が少なく回答者の特定に繋がることに配慮し、ここでは割愛する。

(3) <プロフェッショナルミーティング> (以下、PM)

(目的)

大阪地域在住の MSM に対し HIV 感染に関して予防と検査に関わるプログラムを提供する地域の人的リソースは、行政セクターで市民を対象に検査相談事業に関わっている専門職者(保健師、派遣カウンセラー等)、および予防や検査のプログラムを提供する市民セクターで働く専門職者(NGO 職員、ボランティア)、の二グループに大別される。これまで、これら二つのセクターにまたがる情報共有の場は、啓発や

検査に関わるイベントなど偶発的な場合を除いて、恒常的な仕組みとしては実施されてこなかった。本企画は、検査相談事業に関わる専門職者がセクターを越えたネットワークを構築する場を恒常的に創出することで、大阪地域における MSM の HIV 予防と検査をめぐる環境を向上させることを目的とする。

ネットワーク構築の具体的な成果としては、以下の二点が期待される。1)行政セクターの専門職者が大阪地域在住の MSM の予防・検査行動に関する情報を得ることで、MSM に対しより質の高いプログラムが提供できるようになる ;2)市民セクターの専門職者が地域全体の検査場における MSM 対応状況を把握することで、MSM への検査行動の促しに活用できるようになる。

(内容)

- ・導入セッション
- ・プレゼンテーション :

「大阪地域保健所検査受検者アンケート結果報告」塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)

「大阪地域における HIV 感染対策の現在の状況と今後について」後藤大輔(MASH 大阪/財団法人エイズ予防財団)

- ・日頃の成果と課題を共有するための懇談会(広報)

大阪市保健所、大阪府保健所の感染症担当より各保健所(センター)へ周知した。

(結果)

開催日 : 2013 (平成 25) 年 5 月 29 日(月) 19:00 ~21:00

場所 : 山西記念福祉会館 (大阪市北区神山町)

- 1) 参加者 18 名、(発表者 2 名、スタッフ 3 名、オブザーバー 1 名を含めると計 24 名)。
- 2) 参加機関 10 機関 (大阪府地域保健感染症課、堺市保健所、四条畷保健所、池田保健所、大阪市北区、淀川区、大阪市保健所、特定非営利活動法人 CHARM、スマートらいふネット、大阪府立公衆衛生研究所)

(成果)

- 1) 参加者アンケートに「NPO・NGO と行政の情報

共有・課題共有の場となった」「他行政の取り組みを知ることができた」といった記述がみられ、縦割り行政の枠組みを超えた情報共有・課題検討の場になった。

2) 顔の見えない関係性でなくなった。

(4) 大阪府の検査場面における MSM への対応の研修会

(目的)

大阪府の検査場面における研修のひとつとして、HIV 相談について、MSM 対応の模擬体験を主に行うプログラムを企画して実施した。検査に関わる保健師の MSM への対応の準備性を高める事を目的とする

(内容)

HIV 検査・相談事業に関わる保健師や医師等を対象とした。受講者に現実的な相談場面を体験してもらうため、MASH 大阪がリクルートした人に仮想事例を演じてもらい、受講者がそれに対応した。グループワークを通じて密な振り返りを行った。

また、受講者が今回の研修で知りたいことを事前に聞き取り、研修の中に情報を含めるようにした。

(結果)

開催日：2013（平成 25）年 10 月 25 日

場 所：大阪府立公衆衛生研究所

1) 参加者 23 名、(受講者 14 名、講師 2 名、模擬体験講師 4 名、スタッフ 3 名)

参加機関 11 機関(吹田保健所、茨木保健所、枚方保健所、守口保健所、藤井寺保健所、富田林保健所、和泉保健所、泉佐野保健所、堺市保健所、東大阪市西保健センター、スマートらいふネット)

3. 介入プログラムの効果評価

1) コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査-GCQ アンケート 2013-

(目的)

横断的な質問紙調査を実施し、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM における HIV を含む性感染症に関連した状況や行動を年齢層別に把握することである。

(方法)

近畿地域での実施は 2013（平成 25）年 4 月 7 日から 7 月 15 日までの約 3 ヶ月間とした。

実施期間中に MASH 大阪の配布した QR コードによって 1,504 名の回答を得た。そのうち重複回答を除く、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM は 790 名であった(有効回答率 52.5%)。

また他地域の QR コードから回答した近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM が 153 名おり、合わせて 943 名を分析対象とした。

分析対象となった 943 名を 2012 年度と同様に、年齢層について 24 歳以下、25-29 歳、30-34 歳、35-39 歳、40 歳以上の 5 カテゴリーに分類し、質問項目を年齢カテゴリー別に分析した。24 歳以下は 253 名(26.8%)、25-29 歳は 264 名(28.0%)、30-34 歳 180 名(19.1%)、35-39 歳は 127 名(13.5%)、40 歳以上は 119 名(12.6%)であった。

データの集計および統計処理には IBM SPSS Statistics 19 を用いた。なお、本研究実施計画については名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得た (ID 番号 11027-2)。

(結果)

近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM 943 人の年齢層別の状況について付表 15-18 に示した。

全体ではゲイであると回答する割合は 83.0%であり、独居割合は 49.2%、既婚割合は 1.0%、健康保険未加入割合は 2.5%であった。生涯におけるゲイ向け商業施設利用割合はゲイバーが最も高く 87.6%、次いでスマートフォンのゲイ向けアプリ 74.9%、ゲイナイト 72.9%、携帯出会い系サイト 69.6%等であっ

た。ゲイバーやゲイナイト、有料のハッテン場等は年齢層が高いほど利用割合が高かった。

(付表 15)

生涯の HIV 抗体検査受検割合は年齢層によって異なり 40 歳以上が最も高く 75.6%、次いで 30-34 歳 73.3%、35-39 歳 72.4%、25-29 歳 65.5%、24 歳以下 43.1%であった ($p < 0.01$)。過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合も年齢層によって異なり 30-34 歳が最も高く 45.0%、次いで 25-29 歳 39.8%、35-39 歳 33.1%、24 歳以下 32.0%、40 歳以上 26.9%であった ($p = 0.01$)。2012 年度の調査結果においても生涯受検割合は 40 歳以上では 78.8%と高く、過去 1 年間の受検割合は 30-34 歳が 39.5%で最も高かった。本アンケートが予防意識の高い層に偏っている可能性もあるが、MASH 大阪の活動期間や主に対象としてきた年代層で過去 1 年間の受検割合は高いことは介入効果の可能性も示唆される。一方で若年層での HIV 感染拡大が指摘されており 24 歳以下の受検割合を介入の浸透度の高いと思われる年代層の割合に近づける必要がある。(付表 16)

コミュニティセンターの来場経験割合は全体では 32.4%、年齢層別には 35-39 歳が最も高く 40.9%、次いで 30-34 歳 37.2%、25-29 歳 31.8%、40 歳以上 31.1%、24 歳以下 26.1%であった ($p < 0.01$)。コミュニティペーパーの既読割合は全体では 58.4%、年齢層別には 35-39 歳が最も高く 75.6%、次いで 40 歳以上 71.4%、30-34 歳 69.4%、25-29 歳 53.0%、24 歳以下 41.5%であった ($p < 0.01$)。<南界堂通信>の既読割合は全体では 6.5%、年齢層別には 40 歳以上が最も高く 15.1%、次いで 30-34 歳 5.6%、24 歳以下 5.5%、25-29 歳 4.9%、35-39 歳 4.7%であった ($p < 0.01$)。コミュニティセンターやコミュニティペーパーの接触状況には蓄積効果がみられ年齢層が高くなると来場割合や既読割合は高くなる傾向であり、2012 年度調査結果と同様であった。新規の<南界堂通信>は目的とした対象層では既読割合が他の年齢層に比

べて高い一方で、39 歳以下では既読割合に差はみられなかった。(付表 18)

コンドーム使用状況については年齢層における差はみられず、全体で 48.2%と低い割合にとどまっていた (付表 17)。一方で検査行動に関してはこれまでの啓発介入が届いていた年代層(25-39 歳)では、再受検も含めて検査行動が促進された可能性が考えられる。しかし MASH 大阪の活動の接触については 24 歳以下では来場経験割合や既読割合が低く、介入の浸透度は低いと考えられる。

2) HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査

(目的)

本報告では MSM 受検者の特性に焦点をあて、検査行動の促進に関する介入の効果評価を目的とした。

(方法)

大阪府内の 15 箇所の保健所の協力を得て HIV 検査受検者を対象とした質問紙調査を実施した。本分析では 2013 (平成 25) 年 1 月から 9 月末に得られた回答者を対象とした。

方法は、HIV を含む性感染症の検査受検者に調査回答を依頼し、同意の得られた受検者から回答を得た。通常検査、即日検査のいずれの場合も検査結果が返却される前に質問紙を記入することを依頼した。記入後は回答者が回答用封筒に質問紙を密封し、各機関に設置された回収箱に投函する方法とした。集められた質問紙は毎月月末に各機関で回収し、調査事務局へ密封したまま郵送された。

質問項目は基本属性、HIV 検査受検経験、HIV や検査に対する意識、性行動、資材認知等とした。資材や CBO の活動の認知には画像を使用した。

調査の概要として HIV 検査実施状況および陽性判明数(率)を男女別に付表 19 に示した。2013 (平成 25) 年度は累計で受検件数は 10,253 件であり、陽性判明数は 41 名(0.40%)であった。質問紙は 8,499 名の回答を得た(回収率

82.9%)。

年齢・居住地・性別・生涯の HIV 検査経験について無回答であったものを除き、有効回答とした。その他の項目について無回答であった場合はいずれかの選択肢を含めて集計した。2013 (平成 25) 年 1 月から新たに HIV/STI や検査に関する知識として以下の 5 項目追加した。ウィンドウピリオドについて「通常の HIV 検査では、感染から 2~3 ヶ月経過しないと感染しているかどうか分からない(正答)」、偽陽性の可能性について「HIV 即日検査や郵送検査キットでは、感染していなくても陽性(感染している)と結果が出ることもある。(正答)」、偽陽性の場合、再検査の必要性があることについて「HIV 即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある。(正答)」、重複感染について「性感染症に感染していると、HIV に感染しやすくなる。(正答)」、服薬治療について「HIV 感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった。(正答)」。これらの項目の追加にあたっては各保健所担当者や CBO 等の当事者と検討を重ねた。

分析では、性別が男性であり「これまでにセックスをした相手の性別」が男性または男性と女性両方であったと回答した人を MSM とした。性別が男性であり MSM ではなかった人を MSM 以外の男性とした。MSM 以外の男性、女性、MSM の 3 群に分類し、各群における差異について検討した。そして MSM 群における CBO 活動や資材の認知によってあり群となし群に分類し、その 2 群間の差異を検討することによって、介入の効果評価を試みた。

また chotCAST なんばとそれを除く大阪府の保健所に分けて分析した。

(結果)

分析した結果を付表 20-23 に示した。年齢層は 24 歳以下、25-34 歳、35-44 歳、45 歳以上の 4 群に分類した。大阪府内保健所の平均年齢は

33 歳±8 歳であり最少年齢 15 歳、最高年齢 82 歳、chotCAST なんばの平均年齢は 32 歳±9 歳であり最少年齢 15 歳、最高年齢 73 歳であった。

大阪府内の保健所受検者について MSM 以外男性受検者 (52.1%)、女性受検者 (34.5%)、MSM 受検者 (13.5%) 別にみると、居住地は大阪府在住者がいずれの群でもほとんどであり全体では 89.2%であったが、MSM 以外男性や MSM では大阪府以外からの受検者も 1 割以上いた ($p=0.01$)。独居割合や未婚者割合は MSM 以外の男性・女性に比べ MSM で高かった ($p<0.01$)。健康保険未加入割合は MSM 以外の男性 4.0%、女性 6.8%、MSM 8.0%で MSM では他に比べ高かった ($p<0.01$)。また過去 6 ヶ月間にお金をもらった性交経験は MSM 以外の男性 0.8%、女性 13.1%、MSM 10.7%であり MSM 以外の男性に比べ女性、MSM で高かった ($p<0.01$)。性感染症既往でも MSM 以外の男性 20.0%、女性 31.8%、MSM 33.8%であり MSM 以外の男性に比べ女性、MSM で高かった ($p<0.01$)。(付表 20)

chotCAST の受検者のなかで MSM 割合は 17.6%であった。chotCAST なんばの受検者は大阪府内の保健所受検者と同様の傾向であったが、大阪府以外からの受検者割合は保健所受検者より高く、MSM 以外の男性 20.7%、女性 16.8%、MSM 24.1%であった。(付表 22)

MASH 大阪による活動や広報の認知割合は、大阪府内の保健所受検者では、MSM 以外の男性 0.7%、女性 1.7%、MSM 27.4%であり、MSM 以外の男性、女性に比べ MSM で高かった ($p<0.01$)

(付表 20)。chotCAST なんば受検者では、MSM 以外の男性 1.7%、女性 1.8%、MSM 30.3%であり、同様に MSM 以外の男性、女性に比べ MSM で高かった ($p<0.01$) (付表 22)。

MSM 受検者における MASH 大阪による活動や広報の認知別の受検者特性については付表 21 と付表 23 に示した。大阪府内の保健所受検者でも chotCAST なんば受検者においても認知群では再受検割合が非認知群に比べ高く、HIV や性感染症について友達に相談「できる・できる

と思う」割合や相談場所の認知割合が非認知群に比べ高かった。

D. 考察

今年度初頭に掲げた研究計画の項目にそって、研究事業の実施状況を総括する。

(一次予防関連)

<SaL+>は、計画通りに執行された。内容面での傾向も昨年を踏襲したものとなった。また、既に長期間継続して発行されており、その効果も実証されている。しかしながら若年層の活字離れと言う要因もあってか、ターゲットへの訴求力が弱まってきている事は否定できない。

<南界堂通信>を中高年に特化した資材として、発行する事が出来、安定した編集体制を構築できるようになった。また調査の結果、比較的順調にターゲット層に浸透している事が示唆された。

dista は、おおむね計画通りに執行された。その結果として、利用者は微増したが、新規利用者の割合は昨年と同等であり、今後は新しい層をどう効率的に取り込んで行くかを計画する必要がある。

若年層のネットワーク育成<Step>は、計画通りに執行され、ターゲットとする層からのリクルートも若者オーガナイザーを中心とした内容にする事で参加者が増えた結果となった。

<性の健康教室>は、プログラムの名称と内容が変更されたが、これまでの質やノウハウを活かしながら維持され、参加者数もほぼ前年までの水準を維持した。

(二次予防関連)

大阪府より委託を受け、STI クリニックでの受検を促進するプログラム<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>の広報を実施した

(2013 (平成 25) 年 8 月～9 月末と、2013 (平成 25) 年 12 月～2014 (平成 26) 年 2 月末)。また、広報先の拡充方法として今回 MASH 大阪

と協力関係にあるハッテン場全店舗のロッカーに常設のマグネットポケットを設置し、そこに啓発の資材を入れる事が出来た。

<クリニックで HIV と梅毒検査受けてみるキャンペーン>では、無料であること、比較的受けやすいクリニックが複数あることから、受検者の殺到が懸念されたが結果は受検者 6 名と、無料のファクターが受検動機を大きく促進するものではない事が示唆された。また広報を MSM が集まる場所でのみ行ったことで HIV や梅毒の感染を早期に知る機会を提供できたとかんがえられる。このことから、少ない受検者数でも感染の可能性があると思われる人に届けられた可能性があり、MSM の集まる場所における広報は効果が高い事が示唆された。

PM では、色々なセクターが MSM の HIV 予防を共に考える事によって、NPO/NGO と行政機関との情報共有や、考える場になった。

大阪市保健所より依頼を受け、大阪市北区保健センターでの午後の臨時検査について、<SaL+>で広報を行った。

(アウトリーチ関連)

配布部数、参加するボランティア数、配布先店舗数など、昨年と同様の規模と質を維持した。

(アドボカシー関連)

大阪大学医学部より依頼があり、dista の見学・講義を実施した。

また地域のステーションナリー企業と協力し、文房具開発を行った。そして、LGBT の医療・福祉・教育を考える全国大会において、大阪地域における HIV・エイズの現状などのワークショップを開催した。

(学会等での情報発信)

第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会において、演題発表を行った。11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific

において、<SaL+>の効果評価について報告した。(下記研究発表等を参照)

(研究関連)

大阪府内の無料匿名検査場で、受検者アンケート 2013 を実施した。STI クリニックでの検査プログラム<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>において、大阪府の委託により受検者アンケートを実施した。

介入プログラムの効果評価として、GCQ アンケート 2013 と HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査を実施した。

予防行動のうち受検行動は生涯受検割合が 2012 年度 59.7%、2013 年度 63.2%であり、過去 1 年間の受検割合が 2012 年度 36.3%、2013 年度 36.2%であり大きな変化はみられなかった。またコンドーム使用状況についても同様で、過去 6 ヶ月間のアナルセックス時のコンドーム常用割合は相手別には、彼氏や恋人などの特定相手との場合が 2012 年度 39.1%、2013 年度 47.5%、友達やセフレなどの相手との場合が 2012 年度 49.4%、2013 年度 48.8%、その場限りの相手との場合が 2012 年度 49.4%、2013 年度 51.7%であった。

一方でコミュニティセンターの来場経験割合は 36.9%(2012 年度)から 32.4%でほぼ横這いであり、コミュニティペーパーの既読割合は 65.4%(2012 年度)から 58.4%に低下していた。本調査の回答者集団に偏りが生じている可能性もあり限界が大きい。24 歳以下の若年層では介入の浸透度が他の年齢層に比べ低く、全体の予防行動の割合が低下していることが考えられ、今後は 24 歳以下の介入を進めていくことが必要となる。

また受検者を対象とした質問紙調査からは、保健所受検者における MSM 割合等を明らかにした。chotCAST なんば受検者は大阪府内の保健所受検者と比べ大阪府以外の居住者がやや多い傾向であった。MSM 受検者においてはいずれの検査機関受検者でも MASH 大阪の活動の認知

割合は約 3 割であり、認知群では非認知群に比べ相談場所などの支援情報を得ている可能性も示唆された。受検者における MSM 割合や活動認知割合は今後の介入を進めていく上で基礎資料となる。

総じて今後の介入の方向性として 24 歳以下の受検行動の促進が必要である。また年齢に限らずコンドーム使用行動を促進させる取り組みが必要と考えられる。

E. 結語

1. プログラムはおおむね計画通りに継続された。<SaL+>は、すでに長期間継続的に実施されているものであり、その効果も実証されている。量的、質的エビデンスも蓄積されてきており、運営基盤がより安定した。しかしながら若年層の活字離れという要因もあつてか、ターゲット層への訴求力が弱まっていることは否定できない。また、中高年層向けのメディア<南界堂通信>は調査の結果比較的順調にターゲット層に浸透しており、編集体制も整備されつつある。コミュニティセンターの月平均初来場者数は、昨年度 59.1 名であったが、本年度は 63.1 名とやや持ち直し、特に 9 月以降は 78.3 名まで上昇し、高い来場者率を保っている。
2. 「エイズ予防のための戦略研究」によって整備されたプログラムの多くが「同性愛者の HIV に関する相談・委託事業」によって引き継がれ、公費により委託を受けた民間非営利セクターが一次・二次・三次予防のプログラムを実施する状況が大阪地域に定着した。また、<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>においては、自治体(大阪府)の予算のみで実施することが出来、商業的ハッテン場での広報に大幅な進展がみられた。全てのハッテン場のロッカーにマグネットポケットを設置し、そこに資材を配置する方法は、来年度以降も広報活動に大きく貢献することが期待される。

3. 本年度はアウトリーチのボランティア募集において困難があった。アウトリーチ体制の再構築が喫緊の課題である。
4. 地方自治体が進める「予防指針」策定作業への参画、保健師研修への協力などの点において、行政との協働事業に進展が見られた。

F. 発表論文等

(論文)

1. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 2013, 60 卷(10 号), 639-650
2. Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Toshio Machi, Daisuke Goto, Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, Sexual Health, 23 February 2012
3. 金子典代, 大森佐知子, 辻宏幸, 鬼塚哲郎, 市川誠一: ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 感染予防行動のステージと関連要因-大阪市内での商業施設利用者への質問紙調査から, 日本公衆衛生雑誌, 2011, 58(7), 501-514
(口頭発表)
1. Daisuke Goto, Satoshi Shiono, Toshio Machi, Tetsuro Onitsuka, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Effectiveness of preventive intervention related to condom use among MSM in the Kinki area, The 11th ICAAP, Bangkok, Thailand, 2013

2. Tetsuro Onitsuka, Sohei Yamada, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Toshio Machi, Takaki Toda, Hirokazu Kimura, Kumiko Nakamura, Seiichi Ichikawa: Analysis of Paper Media Contents Targeting Approach to Outreach MSM in the Osaka Region, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
3. Tetsuro Onitsuka, Hiroyuki Tsuji, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: The HIV/AIDS epidemic among MSM in Japan: Background & gay NGO responses, 1st Developed Asia Regional Consultation on HIV in MSM and TG, Singapore, 2010
4. 町登志雄, 後藤大輔, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 市川誠一: MSM向けHIV検査普及プログラム「クリニック検査1000円キャンペーン」広報についての考察, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
5. 牧園祐也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
6. 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊広, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
7. 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一: 診療所を窓口としたMSM向けHIV検査普及プログラムの改良に向けた検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

付表1：SaL+配布実績（2013年12月末時点）

期間	配布された施設 (昨年度の数値)	送付団体・個人 (昨年度の数値)	配布された部数 (昨年度の数値)	配布スタッフ延べ数 (昨年度の数値)
2013年4月	187店舗(187店舗)	40団体(40団体)	6619部(6431部)	22名(21名)
5月	184店舗(186店舗)	45団体(41団体)	6284部(6326部)	20名(21名)
6月	186店舗(181店舗)	45団体(41団体)	6374部(6274部)	23名(23名)
7月	189店舗(185店舗)	45団体(41団体)	6444部(6337部)	22名(17名)
8月	189店舗(185店舗)	46団体(41団体)	6470部(6296部)	17名(21名)
9月	188店舗(185店舗)	46団体(42団体)	5900部(6326部)	18名(18名)
10月	186店舗(180店舗)	46団体(41団体)	6335部(6204部)	20名(22名)
11月	189店舗(181店舗)	46団体(41団体)	6477部(6226部)	26名(30名)
12月	186店舗(185店舗)	46団体(45団体)	6387部(6316部)	26名(26名)
2014年1月	184店舗(店舗)	団体(団体)	6302部(部)	名(名)
2月	183店舗(店舗)	団体(団体)	6087部(部)	名(名)
3月	店舗(店舗)	団体(団体)	部(部)	名(名)
4月～12月	月平均187店舗	月平均45団体	月平均6365部 合計57290部	月平均21名 合計194名

付表2：南界堂通信配布実績（2013年12月末時点）

期間	配布された施設 (昨年度の数値)	送付団体・個人 (昨年度の数値)	配布された部数 (昨年度の数値)	配布スタッフ延べ数 (昨年度の数値)
2013年5月	184店舗	45団体	1800部	20名
8月	201店舗	45団体	1775部	17名
11月	202店舗(199店舗)	46団体(41団体)	1838部(1628部)	26名(23名)
計	平均195店舗	平均45団体	平均1804部 合計5413部	平均21名 合計63名

付表3：dista利用者状況-2013年度（12月末時点）

期間	MASH大阪 業務利用者 (うち初来場者)	イベント来場者 (うち初来場者)	ふらっと来た人 (うち初来場者)	情報入手・相談・貸出 (うち初来場者)	合計 (うち初来場者)	稼働時間
4月	8名(0名)	155名(7名)	418名(54名)	15名(1名)	596名(62名)	158時間
5月	43名(0名)	140名(3名)	395名(38名)	11名(1名)	589名(42名)	183時間
6月	38名(5名)	146名(14名)	403名(52名)	38名(14名)	625名(85名)	183時間
7月	37名(2名)	202名(21名)	301名(26名)	9名(2名)	549名(51名)	184時間
8月	15名(3名)	129名(9名)	337名(21名)	21名(5名)	502名(38名)	176時間
9月	35名(2名)	246名(26名)	366名(41名)	23名(10名)	670名(79名)	193時間
10月	45名(1名)	178名(26名)	454名(46名)	24名(3名)	701名(76名)	182時間
11月	12名(1名)	266名(27名)	440名(42名)	24名(10名)	742名(80名)	183時間
12月	34名(7名)	193名(15名)	406名(30名)	12名(3名)	645名(55名)	179.5時間
1月	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	時間
2月	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	時間
3月	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	時間
年度合計	267名(21名)	1655名(148名)	3520名(350名)	177名(49名)	5619名(568名)	1621.5時間
月平均	29.6名 (2.3名)	183.8名 (16.4名)	391.1名 (38.8名)	19.6名 (5.4名)	624.3名 (63.1名)	180.1時間

付表4：dista 利用者数年度別推移-2003年4月～2013年12月末時点

年度	合計	月平均
2003年度（平成15年度）	3436人	286.3人
2004年度（平成16年度）	5910人	492.5人
2005年度（平成17年度）	6187人	515.5人
2006年度（平成18年度）	8402人	700.2人
2007年度（平成19年度）	9377人	781.4人
2008年度（平成20年度）	9749人	812.4人
2009年度（平成21年度）	9815人	817.9人
2010年度（平成22年度）	9989人	832.4人
2011年度（平成23年度）	7331人	610.9人
2012年度（平成24年度）	7653人	637.8人
2013年度（平成25年度） 12月末現在	5619人	624.3人

付表5：dista 利用者年代別状況-2013年度（12月末時点）

期間	～10代	20代	30代	40代	50代～	合計
4月	16名	258名	236名	64名	22名	596名
5月	23名	236名	234名	70名	26名	589名
6月	32名	252名	224名	86名	31名	625名
7月	8名	198名	235名	76名	32名	549名
8月	22名	180名	203名	65名	32名	502名
9月	21名	267名	252名	86名	44名	670名
10月	22名	281名	284名	73名	41名	701名
11月	24名	322名	284名	76名	36名	742名
12月	34名	253名	250名	75名	33名	645名
1月	名	名	名	名	名	名
2月	名	名	名	名	名	名
3月	名	名	名	名	名	名
合計	202名	2247名	2202名	671名	297名	5619名
月平均	22.4名	249.6名	244.6名	74.5名	33名	624.3名

付表6：主たる dista カフェイベント及び教室・講座の実施内容一覧
 -2013年度（12月末時点）

イベント名	イベント・教室の内容
Salon de ONI	ワインを楽しみながら、年齢層の高い人も交えてじっくり深い話ができる空間を提供する。不定期、第4土曜日に開催。
レインボーアディクションミーティング	LGBTの人たち向けの様々なアディクションからの解放と回復を目的としたグループミーティング。毎月第4木曜日に開催。
東方美男	中国茶やスイーツを手軽に楽しみながら、来場者同士でじっくり話の出来る空間を提供する。奇数月の第1土曜日に開催。
CAMP!	映画を素材として、参加者と主催者でセクシュアルマイノリティに関する話題を展開していくイベント。3ヶ月に1回開催。
虹茶房	地域社会を構成する様々な人達(ヘテロセクシュアル/LGBT/HIV陽性者)が等しく豊かさを求められるコミュニティ・社会の実現を目指し、ふれ合いの場を提供するカフェイベント。毎月最終土曜日に開催。
honey movie	ゲイや社会にまつわる映画・映像作品を観て、感じたことを語らうイベント。毎月最終日曜日に開催。
二般ハングル教室	誰でも参加可能な韓国語会話教室。教室以外にも温泉旅行に韓国旅行など、メンバーの親睦も図るイベントも行う。第1、第3金曜日に開催。
L*Sign -手話教室-	セクシュアルマイノリティ対象の手話教室。日本手話でろう者と日常的な会話ができるようになる事を目的としている。第2、第4金曜日に開催。
中国語講座	片言でも通じる観光用の会話と中国語歌詞でカバーした日本曲の「サビ」カラオケを題材とした中国語教室。毎月第1土曜日と第3日曜日開催。
アートワークショップ アトリエP	様々な画材を使って自由にモノ作りを通して、参加者に交流してもらうオープンスタイルのワークショップ。不定期開催。
堂山アートななう&ひあ	アート系もの作りイベント(スタジオ)と外へお出かけの後 dista へ向かう(トリップ)がある。奇数月の第2木曜日と偶数月の第2土曜日に開催。
ヨガ	初心者でも楽しめるヨガとストレッチを合わせた体操イベント。毎月第2月曜開催
性の健康教室	性感染症予防啓発のためのワークショップ型勉強会。毎月第2土曜日開催。
アロマ教室	アロマを使ったセルフヒーリング教室。毎月第2日曜日開催。
あすぼらっきい	ジェンダーの視点から発達障がいを考え、ゲストスピーカーを通して発達障がいのある方でも「私メッセージ」で語る方法と大切さを伝えるトークイベント。
トジシャシューベナイト	セクシュアルマイノリティおよび発達障がいの当事者やその周辺にいる人たちが参加可能なトークイベント。毎月第2水曜日開催。
ハピ☆コミ	カードゲームなどを通して楽しくコミュニケーションを学ぶワークショップ型イベント。毎月第1木曜日開催。
STEP	若者ゲイ・バイ男性のための「STEP☆DAY」(毎月最終水曜日開催)と、若者ゲイ・バイ男性のためのお友達づくり応援イベント「STEP☆PARTY」(不定期開催)。
哲学カフェ	ファシリテーター(対話の整理役)の力を借りて、セクシュアルマイノリティに関するテーマについて論理的に対話することを目指すトークイベント。不定期開催。

付表7：dista 展覧会の実施内容一覧-2013年度（12月末時点）

タイトル	アーティスト	期間	来場者数
「ZUMANITY&NUDE」写真展	早川智彬 ほか	7月10日～7月22日	113名
「めんたいこ展」	ー+ (いっと)	9月25日～10月14日	133名

付表 8 : dista 相談件数の推移—2013 年度 (12 月末時点)

(電話相談・別目的での来場後に相談へ移行したものを含む)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2004年度	1件	3件	4件	3件	0件	1件	0件	0件	0件	3件	3件	0件	18件	1.5件
2005年度	2件	2件	0件	4件	1件	5件	1件	1件	1件	1件	0件	1件	19件	1.6件
2006年度	6件	10件	4件	0件	1件	7件	1件	3件	3件	6件	3件	5件	49件	4.0件
2007年度	5件	7件	23件	15件	9件	7件	19件	5件	5件	0件	0件	2件	97件	8.1件
2008年度	19件	10件	19件	18件	20件	19件	21件	32件	18件	23件	20件	27件	246件	20.5件
2009年度	10件	31件	16件	26件	14件	28件	19件	27件	21件	3件	1件	6件	202件	16.8件
2010年度	20件	15件	29件	9件	13件	25件	21件	10件	12件	24件	10件	5件	193件	16.0件
2011年度	23件	18件	21件	8件	11件	23件	23件	8件	3件	24件	15件	10件	187件	15.5件
2012年度	20件	29件	53件	36件	54件	63件	67件	41件	18件	57件	41件	11件	490件	40.8件
2013年度	12件	12件	15件	10件	15件	17件	13件	27件	7件	件	件	件	12月迄 128件	12月迄 14.2件

付表 9 : dista 相談内容の状況—2013 年度 (12 月末時点)

相談内容 (複数チェック)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計
A 群	HIV 感染不安	3	0	2	1	1	4	1	3	1				
	STI 感染不安	3	0	3	0	2	5	2	2	0				
	HIV 検査に関する相談/報告	2	0	1	0	1	5	3	5	1				
	STI 検査に関する相談/報告	3	1	1	1	0	4	4	0	1				
	HIV/エイズの治療についての質問・報告	0	0	1	0	0	1	0	3	2				
	HIV/エイズに関するその他(一般的な)質問	0	0	3	0	0	4	1	3	0				
	HIV 陽性者としての生活・制度・支援	1	0	1	0	0	3	0	2	1				
	HIV 陽性者グループ・医療相談 機関紹介	0	0	0	0	0	1	0	1	0				
	HIV 告知に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	A 群その他	1	0	3	1	0	1	0	1	2				
B 群	恋愛・セックス	6	7	4	5	4	10	7	8	1				
	現在のパートナーとの関係	2	1	0	0	1	5	2	4	0				
	家族との関係について	1	1	2	2	4	5	2	6	2				
	ライフステージに関する不安・ 問題 (進学・仕事・就職・結婚・パートナーシップ・老後の生活等)	3	6	2	4	8	7	5	7	3				
	経済的な不安/問題	0	0	1	1	4	2	1	2	1				
	アイデンティティ、カミングアウト	1	2	1	2	2	3	4	0	0				
	精神的不安、疾患	4	8	3	1	2	6	1	4	1				
	薬物使用、依存からの回復	0	0	2	1	0	0	1	1	0				
	その他の健康相談	0	0	1	0	0	1	0	0	0				
	B 群その他	2	0	4	2	2	6	0	3	2				
C 群	企業・行政等との協働、NPO/CBO 組織運営	0	0	1	0	0	0	0	0	0				
	研究デザイン・論文等	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	C 群その他	0	0	0	0	2	2	1	2	0				
合計		32	26	36	21	33	75	35	57	18				

付表 10：コミュニティセンターにおける対人支援会議（2013年12月末時点）

開催日	アジェンダ	参加者数	内容
2013年 4月	開催せず	0名	
5月	①今後の予定の確認 ②来場者対応について ③来月の予定について	8名	①これまでの dista の活動および MASH 大阪の歴史について振り返り話しをした。
6月	①コンシェの謝金について ②展覧会について ③来場者集計について ④来場者対応について	8名	④について： どういう来場者にそれぞれのコンシェルジュがどう対応しているのかについて情報交換した。たとえば、来場者対応が重なり十分な対応が困難な状況のとき、どのように切り抜けているかについて話し合った。
7月	①来月の予定について ②展覧会について ③dista への苦情(他のテナントから)について ④来場者対応について ⑤クリニック検査キャンペーンについて ⑥HIV 検査と STI の検査の基礎	8名	②について： 現在開催中の展覧会に来たものの来場者が多く、いったん帰って再来場した人がいた。展覧会中のイベント開催時の机の配置は、展覧会みにきた人にも配慮するようにする設置をすることの検討を行った。
8月	開催せず	0名	
9月	①相談について ②dista の気になること ③コンシェルジュの募集について ④今後の予定について	8名	①について： dista でどのような相談を受けているか、またどのような対応をしているか、実際に相談を受けているコンシェやスタッフの相談事例を共有した。また対応についての意見交換を行った。意見交換をすることによって限界設定を設けることなどを話し合った。
10月	①来場者対応について ②dista 金庫について ③年末年始の dista の予定について ④展報告について ⑤CBT 面談について ⑥治験について	9名	①について： 来場者同士で差別的な会話をするのがあった。「そういう話題は dista でしてほしくない」と注意するかどうかについて検討した。そのような話題がされているときには、コンシェルジュはできるかぎり中立的な立ち位置でいることが大事だということが確認された。
11月	①年末年始の予定について ②展覧会について ③dista 利用者感謝祭について ④来場者対応について	7名	①について： 年末年始はずっと開館し、1月6日から1月10日までは閉館することを話し合った。さらに、dista の壁の補修をすることも話し合った。

付表 11：STI 勉強会（性の健康教室） 実施内容（2013 年 4 月～12 月）

月	テーマ	内容	参加人数
4	ゴムヤロウナイト	コンドームをたくさん用意し、実際に触れてみて大きさや、強度を感じてもらい、暗い場所や視界のあまり聞かない場所を用意し実際につける、使ってみることを体験してもらった。	3名
5	ゴムヤロウナイト part2	コンドームをたくさん用意し、実際に触れてみて大きさや、強度を感じてもらい、暗い場所や視界のあまり聞かない場所を用意し実際につける、使ってみることを体験してもらった。	5名
6	ローションズナイト！！	市販されているローション（潤滑剤）を並べて製品によってどんな違いがあるかをふれてみることで自分の好みのローションを探してみようというテーマで行った。	5名
7	活かせる！イカせるテク！！ セーファーなテク！！！！	男性の裸の写真（表面、背面）をプリントアウトし、そこにセックスの時に実際に使っているテクニックなどを出し合い、意見交換を行った。その後、よりセーファーに行うにはどうしたらいいかを話し合った。	3名
8	フェティッシュ×フェティッシュ	男性の惹かれる部位や萌える（燃える）プレイについて意見を出し合い、その後そのプレイの中でどうやってリスクを減らすことができるかと言う内容で今回は実施した。	2名
9	はじめての夜に気になること	付き合い始めて数か月の時に初めて相手の部屋に行き、2人きりに慣れてきたころに今からセックスをするのかな？と言う設定を用意しその瞬間に、参加者が気になるを書いてもらった。出された意見からトークを展開した。	5名
10	理想のデートプラン☆☆/ HIVの感染経路	今回は、前半、後半に分けセックス&ライフトーク、STI情報コーナーに分けて実施した。前半のセックス&ライフトークでは、一日（24時間）の予定表に理想のデートプランを書いてもらった。その後、自分の理想のデートプランについて意見交換を行った。後半のSTI情報コーナーではHIVの感染経路についての情報提供を行った。	5名
11	はじめての○○○ / マウスケア	今回は、前半、後半に分けセックス&ライフトーク、STI情報コーナーに分けて実施した。前半のセックス&ライフトークでは、『はじめての○○○』と題し、参加者の様々な初体験について語ってもらった。後半のSTI情報コーナーではマウスケアについてトークを行った。	5名
12	カルタと梅毒	今回は、前半、後半に分けセックス&ライフトーク、STI情報コーナーに分けて実施した。前半のセックス&ライフトークでは、『エロ川柳を作ろう!!!』と題し、参加者と一緒に興味を引きつける川柳を作成した。後半のSTI情報コーナーでは梅毒は倍毒!?!と題し、梅毒にしぼったトークを行った。	6名

付表 12：若年 MSM ネットワーク構築支援プログラム Step 実施状況 2013 年度

(2013 年 12 月末時点)

実施日時	人数	参加者内訳		
		リピーター	新規	コミュニティセンター dista 初来場者
ステップデー				
5 月 29 日	17 名	14	3	3
6 月 26 日	9 名	9	0	0
7 月 31 日	13 名	11	2	2
8 月 28 日	5 名	5	0	0
9 月 25 日	14 名	13	1	1
10 月 30 日	6 名	4	2	2
11 月 17 日	51 名	45	6	6
11 月 27 日	4 名	4	0	0
12 月 25 日	9 名	8	1	1
計	128 名	113	15	15
外出系企画				
4 月 7 日	39 名	31	8	3
9 月 28 日	5 名	3	2	1
計	44 名	34	10	4

付表 13：選べる STI 検査 1,000 円キャンペーン ハッテン場へのマグネットポケット配布実績

施設	ロッカー数	パンフレット			
		施設への 配布数	回収数	取得数	
堂山					
A	18	126	84	42	
B	8	56	26	30	
C	24	168	148	20	
D	240	1680	1517	163	
E	358	2506	1290	1216	
F	12	84	26	58	
G	30	210	178	32	
H	60	420	不明	不明	
I	24	168	155	13	
J	30	210	170	40	
ミナミ					
K	24	168	168	0	
L	21	147	128	19	
M	18	126	100	26	
N	24	168	109	59	
新世界					
O	248	1736	910	826	
P	144	1008	910	98	
Q	48	336	不明	不明	
R	15	105	96	9	
		1346	9422 部	6015 部	2651 部

28.1%					

付表 14：選べる!! STI 検査 1000 円キャンペーン 受検者の基本属性

		N=209	%
年齢層	19歳以下	5	2.4%
	20-24歳	30	14.4%
	25-29歳	39	18.7%
	30-34歳	36	17.2%
	35-39歳	36	17.2%
	40-44歳	24	11.5%
	45-49歳	16	7.7%
	50-54歳	7	3.3%
	55-59歳	5	2.4%
	60歳以上	9	4.3%
	無回答	2	1.0%
居住地	大阪市	99	47.4%
	堺市	12	5.7%
	高槻市	5	2.4%
	東大阪市	6	2.9%
	大阪府(四市以外)	33	15.8%
	京都府	12	5.7%
	兵庫県	23	11.0%
	奈良県	7	3.3%
	その他	10	4.8%
	無回答	2	1.0%
健康保険所持状況	国民健康保険	56	26.8%
	職場の健康保険	125	59.8%
	被扶養者の健康保険	16	7.7%
	加入していない	5	2.4%
	無回答	7	3.3%
性的指向	ゲイ	152	72.7%
	バイセクシュアル	38	18.2%
	その他	12	5.7%
	無回答	7	3.3%

図1 過去6ヶ月間の施設利用割合

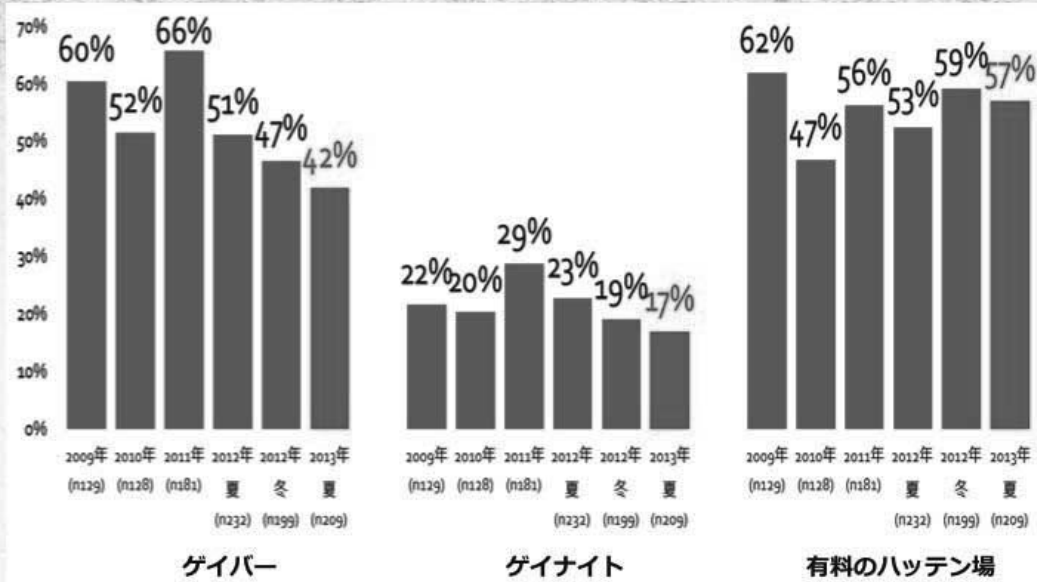


図2 HIV抗体検査受検経験

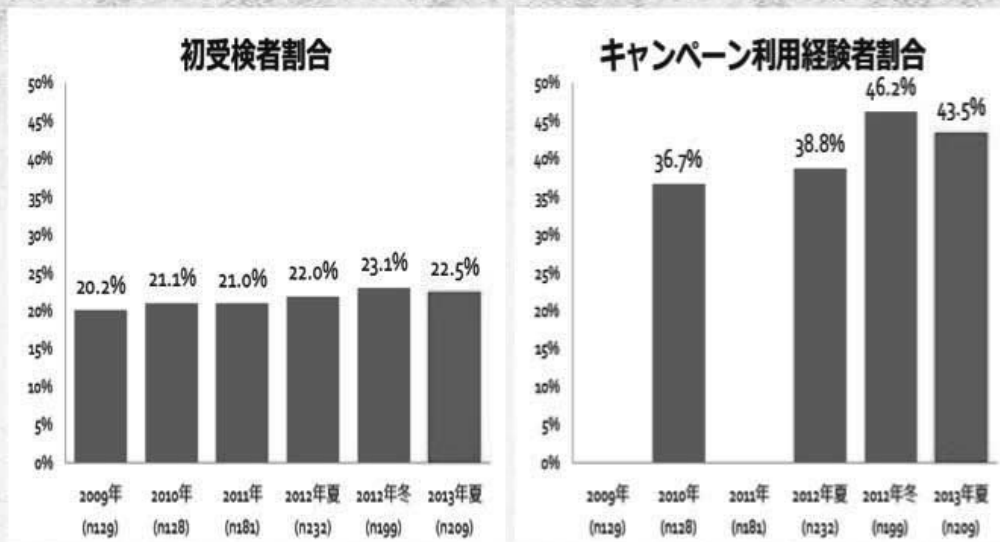
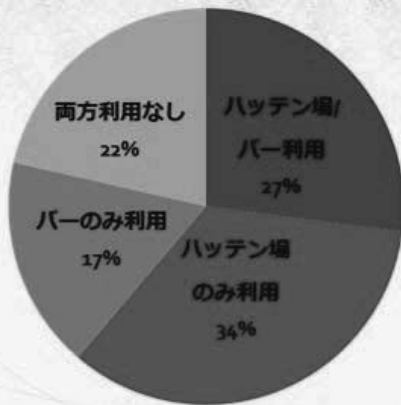


図3 HIV抗体検査受検経験

ハッテン場とバーの利用割合

(無回答を除く196人)



施設利用別初受検者割合

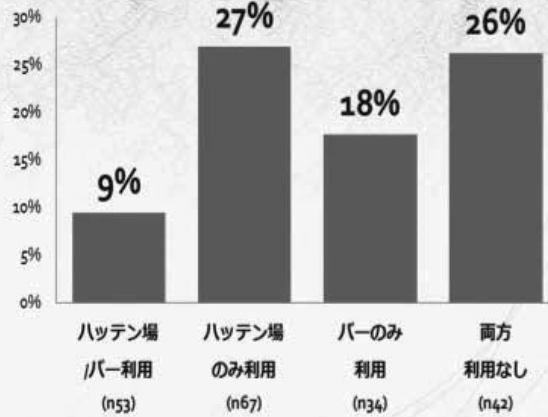
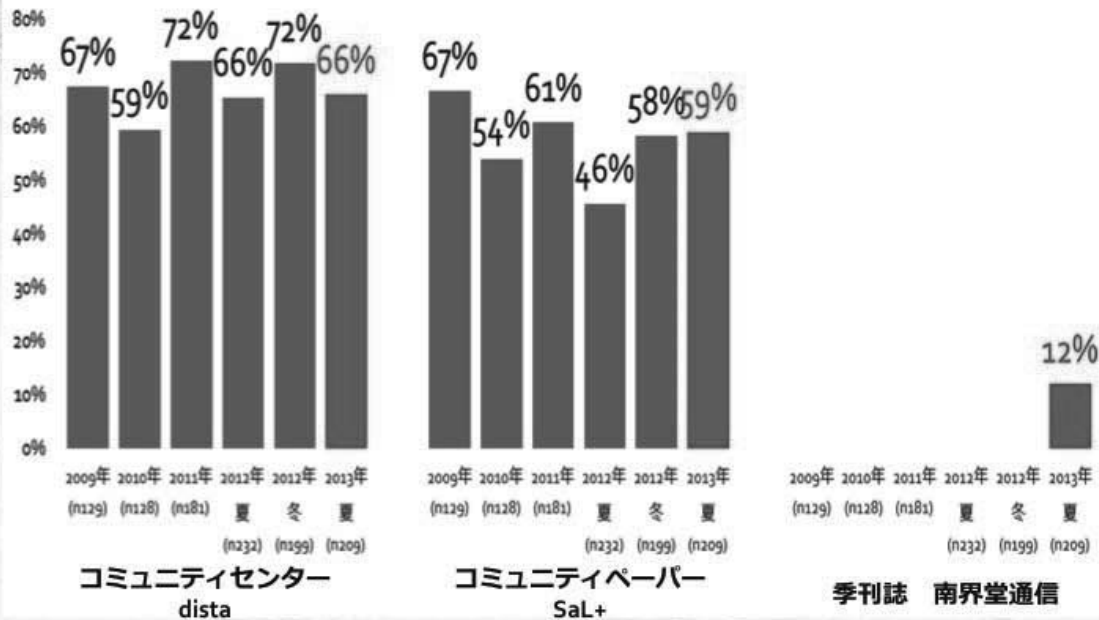


図4 MASH大阪の活動認知割合



付表 15： GCQ アンケート 2013 年齢別の基礎属性

	年齢					合計 n=943	Pearson カイ2乗
	24歳以下 n=253	25-29歳 n=264	30-34歳 n=180	35-39歳 n=127	40歳以上 n=119		
性的指向							
ゲイ(同性愛者)	194 76.7%	212 80.3%	156 86.7%	117 92.1%	104 87.4%	783 83.0%	0.01
バイ(両性愛者)	42 16.6%	40 15.2%	17 9.4%	5 3.9%	10 8.4%	114 12.1%	
その他	17 6.7%	12 4.5%	7 3.9%	5 3.9%	5 4.2%	46 4.9%	
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？							
一人暮らし	103 40.7%	130 49.2%	102 56.7%	70 55.1%	59 49.6%	464 49.2%	<0.01
家族と同居	129 51.0%	89 33.7%	48 26.7%	38 29.9%	30 25.2%	334 35.4%	
家族以外と同居	21 8.3%	45 17.0%	30 16.7%	19 15.0%	30 25.2%	145 15.4%	
あなたは現在、結婚していますか？							
結婚している	1 .4%	1 .4%	1 .6%	1 .8%	5 4.2%	9 1.0%	<0.01
結婚していない	252 99.6%	263 99.6%	179 99.4%	126 99.2%	114 95.8%	934 99.0%	
あなたは現在、健康保険を持っていますか？							
国民健康保険	108 42.7%	85 32.2%	71 39.4%	34 26.8%	43 36.1%	341 36.2%	<0.01
職場の健康保険	81 32.0%	151 57.2%	103 57.2%	84 66.1%	68 57.1%	487 51.6%	
被扶養者の健康保険	54 21.3%	23 8.7%	5 2.8%	6 4.7%	3 2.5%	91 9.7%	
持っていない	10 4.0%	5 1.9%	1 .6%	3 2.4%	5 4.2%	24 2.5%	
次の中でこれまでに利用したものはありますか？ (あてはまるものすべて)							
ゲイバー	197 77.9%	233 88.3%	163 90.6%	120 94.5%	113 95.0%	826 87.6%	<0.01
ゲイナイト	150 59.3%	179 67.8%	145 80.6%	110 86.6%	103 86.6%	687 72.9%	<0.01
ゲイショップ	111 43.9%	154 58.3%	128 71.1%	99 78.0%	104 87.4%	596 63.2%	<0.01
PC出会い系サイト	114 45.1%	130 49.2%	121 67.2%	76 59.8%	68 57.1%	509 54.0%	<0.01
携帯出会い系サイト	168 66.4%	185 70.1%	128 71.1%	94 74.0%	81 68.1%	656 69.6%	0.60
mixiなどのSNS	146 57.7%	166 62.9%	118 65.6%	87 68.5%	76 63.9%	593 62.9%	0.27
エロ系SNS	65 25.7%	100 37.9%	75 41.7%	65 51.2%	54 45.4%	359 38.1%	<0.01
スマートフォンのゲイ向けアプリ	197 77.9%	198 75.0%	136 75.6%	94 74.0%	81 68.1%	706 74.9%	0.38
ゲイ向けサークル	49 19.4%	51 19.3%	39 21.7%	24 18.9%	28 23.5%	191 20.3%	0.84
ゲイ向け合コン	45 17.8%	57 21.6%	50 27.8%	25 19.7%	17 14.3%	194 20.6%	0.04
ゲイの乱パ	13 5.1%	18 6.8%	33 18.3%	13 10.2%	16 13.4%	93 9.9%	<0.01
有料のハッテン場	123 48.6%	146 55.3%	113 62.8%	90 70.9%	90 75.6%	562 59.6%	<0.01
野外のハッテン場	35 13.8%	51 19.3%	49 27.2%	50 39.4%	55 46.2%	240 25.5%	<0.01
ハッテン場で有名な公共施設	65 25.7%	96 36.4%	80 44.4%	67 52.8%	70 58.8%	378 40.1%	<0.01
いずれも利用なし	6 2.4%	1 .4%	2 1.1%	0 .0%	0 .0%	9 1.0%	0.07

付表 16 : GCQ アンケート 2013 年齢別の検査行動、HIV の身近さ、性感染症罹患、性行動

	年齢										合計 n=943	Pearson カイ2乗	
	24歳以下 n=253		25-29歳 n=264		30-34歳 n=180		35-39歳 n=127		40歳以上 n=119				
これまでHIV抗体検査を受けようと思ったことはありますか？													
ある	201	79.4%	229	86.7%	156	86.7%	113	89.0%	108	90.8%	807	85.6%	0.02
ない	52	20.6%	35	13.3%	24	13.3%	14	11.0%	11	9.2%	136	14.4%	
これまでHIV抗体検査を受けたことはありますか？													
ある	109	43.1%	173	65.5%	132	73.3%	92	72.4%	90	75.6%	596	63.2%	<0.01
ない	144	56.9%	91	34.5%	48	26.7%	35	27.6%	29	24.4%	347	36.8%	
過去1年間にHIV抗体検査を受けたことはありますか？													
ある	81	32.0%	105	39.8%	81	45.0%	42	33.1%	32	26.9%	341	36.2%	0.01
ない	172	68.0%	159	60.2%	99	55.0%	85	66.9%	87	73.1%	602	63.8%	
過去1年の検査場所													
保健所の通常検査	35	13.8%	50	18.9%	40	22.2%	12	9.4%	16	13.4%	153	16.2%	0.02
保健所の即日検査	29	11.5%	29	11.0%	13	7.2%	11	8.7%	6	5.0%	88	9.3%	0.21
保健所の夜間検査	2	.8%	6	2.3%	3	1.7%	6	4.7%	2	1.7%	19	2.0%	0.14
医療センターなどの病院	3	1.2%	15	5.7%	14	7.8%	7	5.5%	7	5.9%	46	4.9%	0.02
クリニック・医院・診療所	11	4.3%	22	8.3%	15	8.3%	13	10.2%	7	5.9%	68	7.2%	0.20
郵送検査キット	6	2.4%	3	1.1%	4	2.2%	1	.8%	1	.8%	15	1.6%	0.60
その他	2	.8%	2	.8%	4	2.2%	1	.8%	4	3.4%	13	1.4%	0.19
あなたの友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか？													
いる	44	17.4%	66	25.0%	73	40.6%	59	46.5%	61	51.3%	303	32.1%	<0.01
いると思う	47	18.6%	52	19.7%	36	20.0%	28	22.0%	20	16.8%	183	19.4%	
いないと思う	70	27.7%	55	20.8%	27	15.0%	14	11.0%	11	9.2%	177	18.8%	
いない	21	8.3%	27	10.2%	12	6.7%	4	3.1%	5	4.2%	69	7.3%	
わからない	71	28.1%	64	24.2%	32	17.8%	22	17.3%	22	18.5%	211	22.4%	
過去6か月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	81	32.0%	77	29.2%	71	39.4%	46	36.2%	44	37.0%	319	33.8%	0.28
ない	83	32.8%	106	40.2%	55	30.6%	44	34.6%	43	36.1%	331	35.1%	
彼氏・恋人がいなかった	89	35.2%	81	30.7%	54	30.0%	37	29.1%	32	26.9%	293	31.1%	
過去6か月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	155	61.3%	152	57.6%	115	63.9%	81	63.8%	61	51.3%	564	59.8%	0.17
ない	98	38.7%	112	42.4%	65	36.1%	46	36.2%	58	48.7%	379	40.2%	
過去6か月間に周囲の人とHIVやエイズについて話したことがありますか？													
ある	170	67.2%	165	62.5%	127	70.6%	87	68.5%	71	59.7%	620	65.7%	0.22
ない	83	32.8%	99	37.5%	53	29.4%	40	31.5%	48	40.3%	323	34.3%	
次の中で、これまでにかかったことがある性感染症はありますか？(あてはまるものすべて)													
梅毒	9	3.6%	14	5.3%	23	12.8%	14	11.0%	26	21.8%	86	9.1%	<0.01
A型肝炎	0	.0%	0	.0%	3	1.7%	2	1.6%	6	5.0%	11	1.2%	<0.01
B型肝炎	8	3.2%	13	4.9%	15	8.3%	13	10.2%	12	10.1%	61	6.5%	0.02
C型肝炎	0	.0%	0	.0%	0	.0%	2	1.6%	1	.8%	3	.3%	0.05
クラミジア	6	2.4%	19	7.2%	16	8.9%	13	10.2%	15	12.6%	69	7.3%	<0.01
尖圭コンジローマ	3	1.2%	7	2.7%	11	6.1%	5	3.9%	10	8.4%	36	3.8%	<0.01
淋病	11	4.3%	8	3.0%	16	8.9%	8	6.3%	10	8.4%	53	5.6%	0.05
HIV感染症	4	1.6%	9	3.4%	13	7.2%	7	5.5%	12	10.1%	45	4.8%	<0.01
赤痢アメーバ	0	.0%	0	.0%	6	3.3%	3	2.4%	3	2.5%	12	1.3%	<0.01
毛じらみ	31	12.3%	59	22.3%	68	37.8%	47	37.0%	59	49.6%	264	28.0%	<0.01
生殖器ヘルペス	4	1.6%	2	.8%	7	3.9%	6	4.7%	3	2.5%	22	2.3%	0.07
その他	1	.4%	1	.4%	0	.0%	2	1.6%	1	.8%	5	.5%	0.41
いずれもなし	196	77.5%	168	63.6%	80	44.4%	57	44.9%	47	39.5%	548	58.1%	<0.01
これまで男性とセックスをしたことがありますか？													
ある	236	93.3%	259	98.1%	177	98.3%	126	99.2%	117	98.3%	915	97.0%	<0.01
ない	17	6.7%	5	1.9%	3	1.7%	1	.8%	2	1.7%	28	3.0%	
これまで男性とアナルセックスをしたことがありますか？													
ある	221	87.4%	244	92.4%	168	93.3%	120	94.5%	112	94.1%	865	91.7%	0.05
ない	32	12.6%	20	7.6%	12	6.7%	7	5.5%	7	5.9%	78	8.3%	

付表 17： GCQ アンケート 2013 年齢別の性行動

	年齢					合計	Pearson カイ2乗
	24歳以下	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40歳以上		
過去6ヶ月間のアナルセックス経験							
過去6ヶ月間あり	201 91.0%	210 86.1%	135 80.4%	92 76.7%	75 67.0%	713 82.4%	<0.01
過去6ヶ月間なし	20 9.0%	34 13.9%	33 19.6%	28 23.3%	37 33.0%	152 17.6%	
合計	221 100.0%	244 100.0%	168 100.0%	120 100.0%	112 100.0%	865 100.0%	
コンドーム使用状況							
非常用	102 50.7%	117 55.7%	70 51.9%	39 42.4%	41 54.7%	369 51.8%	0.30
常用	99 49.3%	93 44.3%	65 48.1%	53 57.6%	34 45.3%	344 48.2%	
合計	201 100.0%	210 100.0%	135 100.0%	92 100.0%	75 100.0%	713 100.0%	
彼氏や恋人などの相手とのコンドーム使用状況							
非常用	46 49.5%	57 60.0%	29 53.7%	19 42.2%	16 51.6%	167 52.5%	0.35
常用	47 50.5%	38 40.0%	25 46.3%	26 57.8%	15 48.4%	151 47.5%	
合計	93 100.0%	95 100.0%	54 100.0%	45 100.0%	31 100.0%	318 100.0%	
友達やセクフレなど恋人ではない特定の相手とのコンドーム使用状況							
非常用	54 60.0%	52 52.0%	29 46.8%	16 34.0%	18 58.1%	169 51.2%	0.05
常用	36 40.0%	48 48.0%	33 53.2%	31 66.0%	13 41.9%	161 48.8%	
合計	90 100.0%	100 100.0%	62 100.0%	47 100.0%	31 100.0%	330 100.0%	
その場限りの相手とのコンドーム使用状況							
非常用	37 46.3%	47 52.2%	29 50.0%	15 41.7%	15 46.9%	143 48.3%	0.84
常用	43 53.8%	43 47.8%	29 50.0%	21 58.3%	17 53.1%	153 51.7%	
合計	80 100.0%	90 100.0%	58 100.0%	36 100.0%	32 100.0%	296 100.0%	

付表 18 : GCQ アンケート 2013 年齢別の性行動、薬物使用、金銭を介した性行動、資材認知

	年齢					合計 n=943	Pearson カイ乗
	24歳以下 n=253	25-29歳 n=264	30-34歳 n=180	35-39歳 n=127	40歳以上 n=119		
過去6ヶ月間に、口内射精をしたことがありますか？または、口内射精をされたことはありますか？							
口内射精したことがある	68 26.9%	79 29.9%	45 25.0%	30 23.6%	26 21.8%	248 26.3%	0.09
口内射精されたことがある	41 16.2%	35 13.3%	23 12.8%	15 11.8%	10 8.4%	124 13.1%	
どちらもある	51 20.2%	46 17.4%	30 16.7%	22 17.3%	15 12.6%	164 17.4%	
どちらもない	93 36.8%	104 39.4%	82 45.6%	60 47.2%	68 57.1%	407 43.2%	
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験							
いずれもなし	225 88.9%	238 90.2%	140 77.8%	100 78.7%	95 79.8%	798 84.6%	<0.01
バイアグラのみ併用	5 2.0%	11 4.2%	14 7.8%	16 12.6%	8 6.7%	54 5.7%	
他の薬物併用経験あり	23 9.1%	15 5.7%	26 14.4%	11 8.7%	16 13.4%	91 9.7%	
過去6ヶ月間のセックス時の薬物併用経験 (再掲)							
いずれもなし	225 88.9%	238 90.2%	140 77.8%	100 78.7%	95 79.8%	798 84.6%	<0.01
他の薬物併用経験あり	28 11.1%	26 9.8%	40 22.2%	27 21.3%	24 20.2%	145 15.4%	
過去6ヶ月間に、コンドームを買ったことがありますか？							
ある	111 43.9%	113 42.8%	80 44.4%	49 38.6%	47 39.5%	400 42.4%	0.79
ない	142 56.1%	151 57.2%	100 55.6%	78 61.4%	72 60.5%	543 57.6%	
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？							
いつも持っていた	97 38.3%	111 42.0%	78 43.3%	58 45.7%	56 47.1%	400 42.4%	0.63
時々持っていた	62 24.5%	67 25.4%	42 23.3%	34 26.8%	23 19.3%	228 24.2%	
持っていなかった	94 37.2%	86 32.6%	60 33.3%	35 27.6%	40 33.6%	315 33.4%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？							
ある	13 5.1%	24 9.1%	13 7.2%	10 7.9%	11 9.2%	71 7.5%	0.47
ない	240 94.9%	240 90.9%	167 92.8%	117 92.1%	108 90.8%	872 92.5%	
過去6ヶ月間に相手にお金をもらってセックスをしたことがありますか？							
ある	36 14.2%	26 9.8%	6 3.3%	3 2.4%	1 0.8%	72 7.6%	<0.01
ない	217 85.8%	238 90.2%	174 96.7%	124 97.6%	118 99.2%	871 92.4%	
大阪のコミュニティスペースdista(ディスタ)に行ったことがありますか？							
行ったことがある	66 26.1%	84 31.8%	67 37.2%	52 40.9%	37 31.1%	306 32.4%	<0.01
知っているが行ったことない	23 9.1%	43 16.3%	43 23.9%	36 28.3%	27 22.7%	172 18.2%	
知らない	164 64.8%	137 51.9%	70 38.9%	39 30.7%	55 46.2%	465 49.3%	
MASH大阪が配布しているコミュニティバーバーSaL+を読んだことがありますか？							
読んだことがある	105 41.5%	140 53.0%	125 69.4%	96 75.6%	85 71.4%	551 58.4%	<0.01
知っているが読んだことない	22 8.7%	22 8.3%	11 6.1%	7 5.5%	3 2.5%	65 6.9%	
知らない	126 49.8%	102 38.6%	44 24.4%	24 18.9%	31 26.1%	327 34.7%	
MASH大阪が配布している季刊誌「南界堂通信」を読んだことがありますか？							
読んだことがある	14 5.5%	13 4.9%	10 5.6%	6 4.7%	18 15.1%	61 6.5%	<0.01
知っているが読んだことない	8 3.2%	15 5.7%	9 5.0%	11 8.7%	6 5.0%	49 5.2%	
知らない	231 91.3%	236 89.4%	161 89.4%	110 86.6%	95 79.8%	833 88.3%	
あなたはMASH大阪が実施している選べる!!1000円キャンペーンを知っていますか？							
利用した(クリニックで検査を受けた)	16 6.3%	27 10.2%	15 8.3%	13 10.2%	10 8.4%	81 8.6%	<0.01
知っているが利用したことはない	34 13.4%	55 20.8%	59 32.8%	44 34.6%	34 28.6%	226 24.0%	
知らない	203 80.2%	182 68.9%	106 58.9%	70 55.1%	75 63.0%	636 67.4%	
あなたは「HIVサポートライン関西-HIV陽性の人とパートナー・家族のための電話相談-」を知っていますか？							
知っている	34 13.4%	48 18.2%	37 20.6%	26 20.5%	19 16.0%	164 17.4%	0.27
知らない	219 86.6%	216 81.8%	143 79.4%	101 79.5%	100 84.0%	779 82.6%	
あなたは「ひよっこクラブ-HIVポジティブとわかって間もない人のためのグループミーティング-」を知っていますか？							
知っている	17 6.7%	33 12.5%	18 10.0%	16 12.6%	15 12.6%	99 10.5%	0.19
知らない	236 93.3%	231 87.5%	162 90.0%	111 87.4%	104 87.4%	844 89.5%	

付表 19：HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査（2013 年 1 月～9 月）の概要
大阪府内 (chotCASTなんば除く)

	2011年			2012年									2013年														
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2011年	2012年	2013年
参加施設数	3	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	3	14	14
検査件数 (再掲)	394	656	727	761	588	684	727	605	672	631	680	680	620	620	542	610	620	600	661	610	656	612	681	394	8,031	5,592	
男性	239	417	462	454	392	444	475	382	435	394	450	438	392	368	368	388	392	396	437	377	431	389	469	239	5,135	3,647	
女性	155	239	265	305	191	239	251	222	237	237	230	242	228	174	221	228	204	221	233	225	219	210	155	155	2,886	1,935	
その他	0	0	0	2	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	4	2	0	0	10	10
陽性判明数 (再掲)	2	3	2	0	2	7	2	2	1	0	1	3	3	1	1	1	4	4	4	1	1	1	1	3	2	25	20
男性	2	2	2	0	2	7	2	1	0	1	2	3	1	1	1	1	4	4	4	1	1	1	1	3	2	23	20
女性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陽性判明率	0.51%	0.46%	0.28%	0.00%	0.34%	1.02%	0.28%	0.17%	0.00%	0.16%	0.44%	0.44%	0.16%	0.18%	0.16%	0.16%	0.65%	0.67%	0.61%	0.16%	0.15%	0.16%	0.44%	0.51%	0.31%	0.36%	0.36%
男性受検者中の陽性判明率	0.84%	0.48%	0.43%	0.00%	0.51%	1.58%	0.42%	0.26%	0.00%	0.25%	0.44%	0.68%	0.26%	0.27%	0.26%	1.02%	1.01%	0.92%	0.27%	0.23%	0.26%	0.64%	0.84%	0.45%	0.45%	0.55%	0.55%
質問紙回収数	316	498	532	509	407	397	414	389	510	447	447	458	431	341	463	491	447	492	437	472	435	448	316	5,439	4,026		
質問紙回収率	80.2%	75.9%	73.2%	66.9%	69.2%	58.0%	56.9%	64.3%	75.9%	70.8%	65.7%	67.4%	69.5%	62.9%	75.9%	79.2%	74.5%	74.4%	71.6%	72.0%	71.1%	65.8%	80.2%	67.7%	72.0%		

	2011年			2012年									2013年														
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2011年	2012年	2013年
参加施設数																											
検査件数 (再掲)																											
男性																											
女性																											
その他																											
陽性判明数 (再掲)																											
男性																											
女性																											
その他																											
陽性判明率																											
男性受検者中の陽性判明率																											
質問紙回収数																											
質問紙回収率																											

付表20：HIV抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査 MSM以外男性・女性・MSMの各群における比較
大阪府内（chotCASTなんば除く）

	MSM以外の男性		女性		MSM		合計		χ ² 検定 によるp値	
	n=2031		n=1345		n=525		n=3901			
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？										
	再受検	831	40.9%	507	37.7%	373	71.0%	1711	43.9%	<0.01
	初受検	1187	58.4%	832	61.9%	150	28.6%	2169	55.6%	
	無回答	13	0.6%	6	0.4%	2	0.4%	21	0.5%	
年齢										
	24歳以下	334	16.4%	479	35.6%	107	20.4%	920	23.6%	<0.01
	25-34歳	719	35.4%	520	38.7%	199	37.9%	1438	36.9%	
	35-44歳	494	24.3%	224	16.7%	121	23.0%	839	21.5%	
	45歳以上	453	22.3%	104	7.7%	94	17.9%	651	16.7%	
	無回答	31	1.5%	18	1.3%	4	0.8%	53	1.4%	
居住地										
	大阪府	1787	88.0%	1227	91.2%	464	88.4%	3478	89.2%	0.01
	それ以外の地域*	244	12.0%	118	8.8%	61	11.6%	423	10.8%	
居住形態										
	はい(1人暮らし)	603	29.7%	410	30.5%	249	47.4%	1262	32.4%	<0.01
	いいえ	1419	69.9%	930	69.1%	273	52.0%	2622	67.2%	
	無回答	9	0.4%	5	0.4%	3	0.6%	17	0.4%	
婚姻状況										
	結婚している	803	39.5%	278	20.7%	61	11.6%	1142	29.3%	<0.01
	結婚していない	1223	60.2%	1061	78.9%	463	88.2%	2747	70.4%	
	無回答	5	0.2%	6	0.4%	1	0.2%	12	0.3%	
健康保険加入状況										
	国民健康保険/職場の健康保険	1806	88.9%	884	65.7%	432	82.3%	3122	80.0%	<0.01
	被扶養者の健康保険（家族・親族等の扶養）	144	7.1%	369	27.4%	51	9.7%	564	14.5%	
	未加入*	81	4.0%	92	6.8%	42	8.0%	215	5.5%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*										
	ウィンドウピリオドについて	1685	83.0%	1120	83.3%	474	90.3%	3279	84.1%	<0.01
	偽陽性の可能性について	989	48.7%	558	41.5%	316	60.2%	1863	47.8%	
	偽陽性の場合、再検査の必要性がある	1364	67.2%	900	66.9%	402	76.6%	2666	68.3%	<0.01
	重複感染について	1378	67.8%	872	64.8%	378	72.0%	2628	67.4%	
	服薬治療について	1549	76.3%	986	73.3%	453	86.3%	2988	76.6%	<0.01
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思えますか？										
	できない/できないと思う	913	45.0%	597	44.4%	320	61.0%	1830	46.9%	<0.01
	わからない	336	16.5%	196	14.6%	59	11.2%	591	15.1%	
	できる/できると思う	770	37.9%	551	41.0%	145	27.6%	1466	37.6%	
	無回答	12	0.6%	1	0.1%	1	0.2%	14	0.4%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思えますか？										
	できない/できないと思う	1048	51.6%	551	41.0%	203	38.7%	1802	46.2%	<0.01
	わからない	281	13.8%	182	13.5%	39	7.4%	502	12.9%	
	できる/できると思う	694	34.2%	609	45.3%	281	53.5%	1584	40.6%	
	無回答	8	0.4%	3	0.2%	2	0.4%	13	0.3%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？										
	知らない	1065	52.4%	714	53.1%	200	38.1%	1979	50.7%	<0.01
	知っている	955	47.0%	628	46.7%	322	61.3%	1905	48.8%	
	無回答	11	0.5%	3	0.2%	3	0.6%	17	0.4%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？										
	まったくなかった	649	32.0%	499	37.1%	90	17.1%	1238	31.7%	<0.01
	あまりなかった	716	35.3%	448	33.3%	200	38.1%	1364	35.0%	
	時々あった	557	27.4%	332	24.7%	189	36.0%	1078	27.6%	
	よくあった	97	4.8%	59	4.4%	46	8.8%	202	5.2%	
	無回答	12	0.6%	7	0.5%	0	0.0%	19	0.5%	
過去6ヶ月間に相手にお金を出してセックスをしたことがありますか？										
	ない*	1030	50.7%	1332	99.0%	441	84.0%	2803	71.9%	<0.01
	ある	1001	49.3%	13	1.0%	84	16.0%	1098	28.1%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	2015	99.2%	1169	86.9%	469	89.3%	3653	93.6%	<0.01
	ある	16	0.8%	176	13.1%	56	10.7%	248	6.4%	
あなたはこれまでにの性感染症にかかったことはありますか？										
	ない	1605	79.0%	908	67.5%	345	65.8%	2858	73.3%	<0.01
	ある	407	20.0%	428	31.8%	177	33.8%	1012	25.9%	
	無回答	19	0.9%	9	0.7%	2	0.4%	30	0.8%	
広報資料の認知（複数回答）										
	各行政のホームページ	562	27.7%	383	28.5%	140	26.7%	1085	27.8%	0.72
	各行政の紙資料-ポスター-広報誌等	219	10.8%	193	14.3%	124	23.6%	536	13.7%	<0.01
	CBOの活動や資料	15	0.7%	23	1.7%	144	27.4%	182	4.7%	<0.01
	HIVマップ	85	4.2%	41	3.0%	52	9.9%	178	4.6%	<0.01
	HIV検査・相談マップ	513	25.3%	424	31.5%	166	31.6%	1103	28.3%	<0.01
	AC広告(エイズ予防財団)	141	6.9%	101	7.5%	59	11.2%	301	7.7%	<0.01

*集計のさいに無回答を含んでいる。

付表 21：HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査

MSM 受検者における CBO (MAHS 大阪) の活動や資材の認知別分析

大阪府内 (chotCAST なんば除く)

	CBO活動や資材の認知				合計		χ ² 検定 によるp値
	なし n=381		あり n=144		n=525		
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか？							
再受検	250	65.6%	123	85.4%	373	71.0%	< 0.01
初受検	129	33.9%	21	14.6%	150	28.6%	
無回答	2	0.5%	0	0.0%	2	0.4%	
年齢							
24歳以下	81	21.3%	26	18.1%	107	20.4%	0.51
25-34歳	149	39.1%	50	34.7%	199	37.9%	
35-44歳	83	21.8%	38	26.4%	121	23.0%	
45歳以上	66	17.3%	28	19.4%	94	17.9%	
無回答	2	0.5%	2	1.4%	4	0.8%	
居住形態							
はい(1人暮らし)	178	46.7%	71	49.3%	249	47.4%	0.51
いいえ	200	52.5%	73	50.7%	273	52.0%	
無回答	3	0.8%	0	0.0%	3	0.6%	
婚姻状況							
結婚している	57	15.0%	4	2.8%	61	11.6%	< 0.01
結婚していない	323	84.8%	140	97.2%	463	88.2%	
無回答	1	0.3%	0	0.0%	1	0.2%	
健康保険加入状況							
国民健康保険/職場の健康保険	309	81.1%	123	85.4%	432	82.3%	0.50
被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	39	10.2%	12	8.3%	51	9.7%	
未加入*1	33	8.7%	9	6.3%	42	8.0%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*1							
ウィンドウペリオドについて	340	89.2%	134	93.1%	474	90.3%	0.34
偽陽性の可能性について	210	55.1%	106	73.6%	316	60.2%	
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	281	73.8%	121	84.0%	402	76.6%	0.03
重複感染について	258	67.7%	120	83.3%	378	72.0%	
服薬治療について	319	83.7%	134	93.1%	453	86.3%	0.02
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思えますか？							
できない/できないと思う	227	59.6%	93	64.6%	320	61.0%	0.69
わからない	45	11.8%	14	9.7%	59	11.2%	
できる/できると思う	108	28.3%	37	25.7%	145	27.6%	
無回答	1	0.3%	0	0.0%	1	0.2%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思えますか？							
できない/できないと思う	166	43.6%	37	25.7%	203	38.7%	< 0.01
わからない	29	7.6%	10	6.9%	39	7.4%	
できる/できると思う	184	48.3%	97	67.4%	281	53.5%	
無回答	2	0.5%	0	0.0%	2	0.4%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？							
知らない	173	45.4%	27	18.8%	200	38.1%	< 0.01
知っている	205	53.8%	117	81.3%	322	61.3%	
無回答	3	0.8%	0	0.0%	3	0.6%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？							
まったくなかった/あまりなかった	219	57.5%	71	49.3%	290	55.2%	0.09
よくあった/時々あった	162	42.5%	73	50.7%	235	44.8%	
無回答							
あなたはこれまでにの性感染症にかかったことはありますか？							
ない	267	70.3%	78	54.2%	345	65.8%	< 0.01
ある	111	29.2%	66	45.8%	177	33.8%	
無回答	2	0.5%	0	0.0%	2	0.4%	
広報資材の認知(複数回答)							
各行政のホームページ	98	25.7%	42	29.2%	140	26.7%	0.43
各行政の紙資材-ポスター・広報誌等	60	15.7%	64	44.4%	124	23.6%	
HIVマップ	21	5.5%	31	21.5%	52	9.9%	< 0.01
HIV検査・相談マップ	107	28.1%	59	41.0%	166	31.6%	< 0.01
AC広告(エイズ予防財団)	27	7.1%	32	22.2%	59	11.2%	< 0.01
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	76	27.6%	33	27.7%	109	27.7%	0.98
非常用	199	72.4%	86	72.3%	285	72.3%	
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	86	34.5%	45	41.7%	131	36.7%	0.20
非常用	163	65.5%	63	58.3%	226	63.3%	
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	49	40.8%	6	42.9%	55	41.0%	0.88
非常用	71	59.2%	8	57.1%	79	59.0%	
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	38	37.6%	6	60.0%	44	39.6%	0.17
非常用	63	62.4%	4	40.0%	67	60.4%	

* 1 集計のさいに無回答を含んでいる。

* 2 過去6ヶ月間に膣性交または肛門性交を行ったと回答したもののみを分析対象としたため総数が異なる。

付表 22 : HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査 MSM 以外男性・女性・MSM の各群における比較
chotCAST なんば

	MSM以外の男性		女性		MSM		合計		χ ² 検定 によるp値	
	n=2280		n=1337		n=773		n=4390			
今回を除いて、これまでにHIV検査（エイズ検査）を受けたことがありますか？										
	再受検	946	41.5%	486	36.4%	545	70.5%	1977	45.0%	<0.01
	初受検	1326	58.2%	848	63.4%	225	29.1%	2399	54.6%	
	無回答	8	0.4%	3	0.2%	3	0.4%	14	0.3%	
年齢										
	24歳以下	340	14.9%	458	34.3%	170	22.0%	968	22.1%	<0.01
	25-34歳	980	43.0%	659	49.3%	327	42.3%	1966	44.8%	
	35-44歳	626	27.5%	170	12.7%	181	23.4%	977	22.3%	
	45歳以上	313	13.7%	27	2.0%	90	11.6%	430	9.8%	
	無回答	21	0.9%	23	1.7%	5	0.6%	49	1.1%	
居住地										
	大阪府	1809	79.3%	1113	83.2%	587	75.9%	3509	79.9%	<0.01
	それ以外の地域*	471	20.7%	224	16.8%	186	24.1%	881	20.1%	
居住形態										
	はい(1人暮らし)	879	38.6%	479	35.8%	385	49.8%	1743	39.7%	<0.01
	いいえ	1396	61.2%	857	64.1%	388	50.2%	2641	60.2%	
	無回答	5	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	6	0.1%	
婚姻状況										
	結婚している	728	31.9%	146	10.9%	67	8.7%	941	21.4%	<0.01
	結婚していない	1542	67.6%	1189	88.9%	706	91.3%	3437	78.3%	
	無回答	10	0.4%	2	0.1%	0	0.0%	12	0.3%	
健康保険加入状況										
	国民健康保険/職場の健康保険	2096	91.9%	1049	78.5%	665	86.0%	3810	86.8%	<0.01
	被扶養者の健康保険（家族・親族等の扶養）	109	4.8%	235	17.6%	68	8.8%	412	9.4%	
	未加入*	75	3.3%	53	4.0%	40	5.2%	168	3.8%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*										
	ウィンドウピリオドについて	1990	87.3%	1184	88.6%	721	93.3%	3895	88.7%	<0.01
	偽陽性の可能性について	1440	63.2%	824	61.6%	556	71.9%	2820	64.2%	
	偽陽性の場合、再検査の必要性がある	1742	76.4%	1000	74.8%	641	82.9%	3383	77.1%	<0.01
	重複感染について	1621	71.1%	894	66.9%	591	76.5%	3106	70.8%	
	服薬治療について	1787	78.4%	1018	76.1%	671	86.8%	3476	79.2%	<0.01
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思えますか？										
	できない/できないと思う	1119	49.1%	627	46.9%	540	69.9%	2286	52.1%	<0.01
	わからない	420	18.4%	207	15.5%	95	12.3%	722	16.4%	
	できる/できると思う	739	32.4%	503	37.6%	138	17.9%	1380	31.4%	
	無回答	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.0%	
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思えますか？										
	できない/できないと思う	1268	55.6%	606	45.3%	334	43.2%	2208	50.3%	<0.01
	わからない	349	15.3%	172	12.9%	61	7.9%	582	13.3%	
	できる/できると思う	659	28.9%	557	41.7%	377	48.8%	1593	36.3%	
	無回答	4	0.2%	2	0.1%	1	0.1%	7	0.2%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか？										
	知らない	1273	55.8%	776	58.0%	313	40.5%	2362	53.8%	<0.01
	知っている	1006	44.1%	559	41.8%	457	59.1%	2022	46.1%	
	無回答	1	0.0%	2	0.1%	3	0.4%	6	0.1%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか？										
	まったくなかった	618	27.1%	493	36.9%	115	14.9%	1226	27.9%	<0.01
	あまりなかった	790	34.6%	414	31.0%	271	35.1%	1475	33.6%	
	時々あった	712	31.2%	345	25.8%	311	40.2%	1368	31.2%	
	よくあった	154	6.8%	76	5.7%	75	9.7%	305	6.9%	
	無回答	6	0.3%	9	0.7%	1	0.1%	16	0.4%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	1072	47.0%	1331	99.6%	658	85.1%	3061	69.7%	<0.01
	ある	1208	53.0%	6	0.4%	115	14.9%	1329	30.3%	
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか？										
	ない*	2266	99.4%	1192	89.2%	732	94.7%	4190	95.4%	<0.01
	ある	14	0.6%	145	10.8%	41	5.3%	200	4.6%	
あなたはこれまでにの性感染症にかかったことはありますか？										
	ない	1844	80.9%	951	71.1%	577	74.6%	3372	76.8%	<0.01
	ある	415	18.2%	377	28.2%	193	25.0%	985	22.4%	
	無回答	21	0.9%	9	0.7%	3	0.4%	33	0.8%	
広報資料の認知（複数回答）										
	各行政のホームページ	478	21.0%	273	20.4%	144	18.6%	895	20.4%	0.38
	各行政の紙資料-ポスター-広報誌等	246	10.8%	191	14.3%	123	15.9%	560	12.8%	<0.01
	CBOの活動や資料	38	1.7%	24	1.8%	234	30.3%	296	6.7%	<0.01
	HIVマップ	134	5.9%	51	3.8%	95	12.3%	280	6.4%	<0.01
	HIV検査・相談マップ	757	33.2%	537	40.2%	349	45.1%	1643	37.4%	<0.01
	AC広告(エイズ予防財団)	114	5.0%	89	6.7%	88	11.4%	291	6.6%	<0.01

* 集計のさいに無回答を含んでいる。

付表 23 : HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査

MSM 受検者における CBO (MAHS 大阪) の活動や資材の認知別分析

chotCAST なんば

	CBO活動や資材の認知				合計		χ ² 検定 によるp値
	あり n=539		なし n=234		n=773		
今回を除いて、これまでにHIV検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?							
再受検	345	64.0%	200	85.5%	545	70.5%	< 0.01
初受検	194	36.0%	31	13.2%	225	29.1%	
無回答	0	0.0%	3	1.3%	3	0.4%	
年齢							
24歳以下	129	23.9%	41	17.5%	170	22.0%	0.31
25-34歳	225	41.7%	102	43.6%	327	42.3%	
35-44歳	119	22.1%	62	26.5%	181	23.4%	
45歳以上	63	11.7%	27	11.5%	90	11.6%	
無回答	3	0.6%	2	0.9%	5	0.6%	
居住形態							
はい(1人暮らし)	248	46.0%	137	58.5%	385	49.8%	< 0.01
いいえ	291	54.0%	97	41.5%	388	50.2%	
無回答							
婚姻状況							
結婚している	57	10.6%	10	4.3%	67	8.7%	< 0.01
結婚していない	482	89.4%	224	95.7%	706	91.3%	
無回答							
健康保険加入状況							
国民健康保険/職場の健康保険	465	86.3%	200	85.5%	665	86.0%	0.93
被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	46	8.5%	22	9.4%	68	8.8%	
未加入*1	28	5.2%	12	5.1%	40	5.2%	
HIV/STIや検査に関する知識正答*1							
ウィンドウペリオドについて	502	93.1%	219	93.6%	721	93.3%	0.52
偽陽性の可能性について	364	67.5%	192	82.1%	556	71.9%	< 0.01
偽陽性の場合、再検査の必要性がある	431	80.0%	210	89.7%	641	82.9%	< 0.01
重複感染について	390	72.4%	201	85.9%	591	76.5%	< 0.01
服薬治療について	454	84.2%	217	92.7%	671	86.8%	< 0.01
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに自分の家族に相談できると思いますか?							
できない/できないと思う	377	69.9%	163	69.7%	540	69.9%	0.69
わからない	69	12.8%	26	11.1%	95	12.3%	
できる/できると思う	93	17.3%	45	19.2%	138	17.9%	
無回答							
HIVや性感染症について、あなた自身が困ったとき、不安なときに身近な友達に相談できると思いますか?							
できない/できないと思う	256	47.5%	78	33.3%	334	43.2%	< 0.01
わからない	46	8.5%	15	6.4%	61	7.9%	
できる/できると思う	236	43.8%	141	60.3%	377	48.8%	
無回答	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
HIVや性感染症について、相談できる場所(電話相談など)を知っていますか?							
知らない	244	45.3%	69	29.5%	313	40.5%	< 0.01
知っている	292	54.2%	165	70.5%	457	59.1%	
無回答	3	0.6%	0	0.0%	3	0.4%	
過去6ヶ月間に“HIVに感染しているかも…”と不安に感じたことはありましたか?							
まったくなかった/あまりなかった	274	50.8%	112	47.9%	386	49.9%	0.59
よくあった/時々あった	264	49.0%	122	52.1%	386	49.9%	
無回答	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
あなたはこれまでにの性感染症にかかったことはありますか?							
ない	415	77.0%	162	69.2%	577	74.6%	0.03
ある	121	22.4%	72	30.8%	193	25.0%	
無回答	3	0.6%	0	0.0%	3	0.4%	
広報資材の認知(複数回答)							
各行政のホームページ	107	19.9%	37	15.8%	144	18.6%	0.19
各行政の紙資材-ポスター-広報誌等	71	13.2%	52	22.2%	123	15.9%	< 0.01
HIVマップ	44	8.2%	51	21.8%	95	12.3%	< 0.01
HIV検査・相談マップ	220	40.8%	129	55.1%	349	45.1%	< 0.01
AC広告(エイズ予防財団)	47	8.7%	41	17.5%	88	11.4%	< 0.01
特定(恋人や夫など)の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	129	35.7%	52	29.7%	181	33.8%	0.17
非常用	232	64.3%	123	70.3%	355	66.2%	
特定以外の男性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	140	44.0%	58	35.6%	198	41.2%	0.07
非常用	178	56.0%	105	64.4%	283	58.8%	
特定(恋人や妻など)の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	44	35.5%	15	62.5%	59	39.9%	0.01
非常用	80	64.5%	9	37.5%	89	60.1%	
特定以外の女性との過去6ヶ月間のコンドーム使用状況*2							
常用	40	37.7%	13	61.9%	53	41.7%	0.04
非常用	66	62.3%	8	38.1%	74	58.3%	

* 1 集計のさいに無回答を含んでいる。

* 2 過去6ヶ月間に膣性交または肛門性交を行ったと回答したもののみを分析対象としたため総数が異なる。